

## 8.13. 植物（樹林・樹木等(緑の量)）



## 8.13. 植物（樹林・樹木等(緑の量)）

### 8.13.1. 現況調査

#### (1) 調査内容

植物の現況調査は、表 8.13-1 に示すとおり、「緑の状況」及び「緑化に関する基準等」の把握を実施した。

表 8.13-1 調査内容（植物）

調査内容	
植物	1. 緑の状況 2. 緑化に関する基準等

#### (2) 調査方法

##### ア 既存資料調査

調査方法は、表 8.13-2 に示すとおりとした。

表 8.13-2 調査方法（植物）

調査事項	調査方法
1. 緑の状況	調査方法は、「杜の都の名木・古木」、「せんだい街路樹マップ」、「仙台市の環境」等の既存資料の収集、整理によるものとした。
2. 緑化に関する基準等	調査方法は、「仙台しみどりの基本計画」、「杜の都 環境プラン（仙台市環境基本計画）」、「杜の都の環境をつくる条例」等の基準、法令等の収集・整理によるものとした。

##### イ 現地調査

調査方法は、表 8.13-3 に示すとおりとした。

表 8.13-3 調査方法（植物）

調査事項	調査方法
1. 緑の状況 ・ 植物相	調査方法は、計画地内における緑の状況について、「植栽位置図」（宮城県資料）を用いて、現地概査により樹木等の状況(植物相)を調査するものとした。

#### (3) 調査地域及び調査地点

##### ア 既存資料調査

調査範囲は、地域概況の範囲とした。

##### イ 現地調査

調査地域は、図 8.13-1 に示すとおり、対象事業により植物の生育環境への影響が想定される計画地より 200m の範囲とした。

調査地点は、計画地とした。

(4) 調査期間等

ア 既存資料調査

調査期間等は，限定しないものとした。

イ 現地調査




現地調査の調査時期を表 8.13-4 に示す。

表 8.13-4 調査期間等（植物）

調査事項	季節	調査日
1. 緑の状況	夏季	平成 25 年 8 月 29 日(木)
	秋季	平成 25 年 10 月 21 日(月)
	春季	平成 26 年 4 月 24 日(木)



凡 例

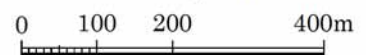
-  : 対象事業計画地
-  : 区境界線
-  : 調査・予測地域(対象事業計画地より200mの範囲)

※ 調査地点は対象事業計画地である。

図 8.13-1 植物調査・予測地点等位置図



S=1:10,000



(5) 調査結果

ア 既存資料調査

計画地周辺の緑の状況は、事業概要「1.3 事業実施の位置」、地域の概況「6.1.4 生物環境」及び地域の概況「6.1.5 景観等及び自然との触れ合いの場の状況」に示すとおりである。

また、計画地周辺の緑地の分布は表 8.13-5、表 8.13-6 及び図 8.13-2 に示すとおりである。

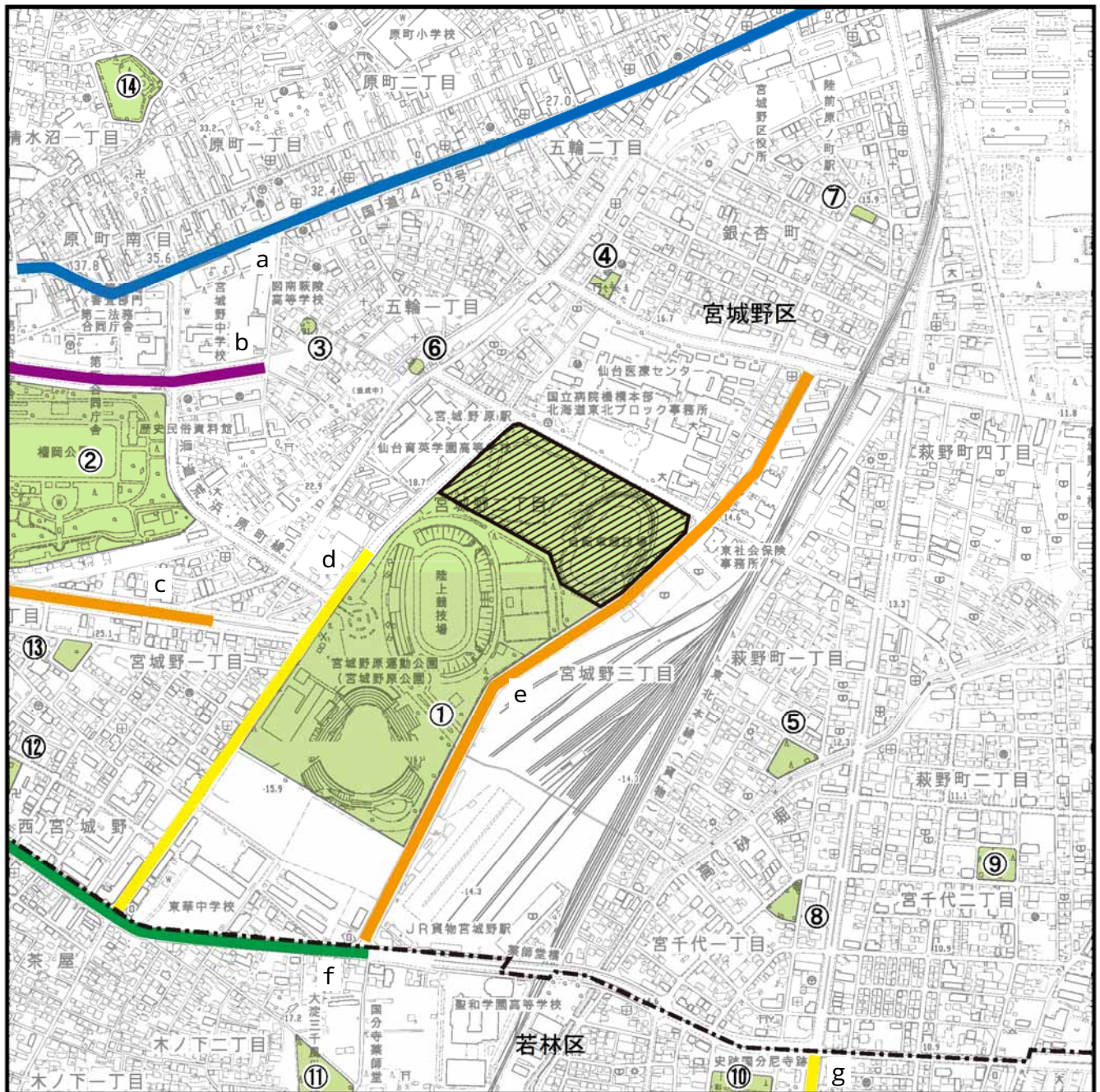
計画地周辺の緑地としては、計画地に隣接して宮城野原公園，西側に榴岡公園，南東側に南宮城野公園がある。

表 8.13-5 計画周辺の緑地の状況

	計画地周辺の公園	備考
	宮城野原公園	図 8.13-2 参照
	榴岡公園	
	五輪ちびっこ公園	
	宮城野八幡神社	
	南宮城野公園	
	五輪一丁目公園	
	銀杏町緑地	
	宮千代公園	
	志波北公園	
	陸奥国分寺跡	
	木ノ下公園	
	新寺五丁目公園	
	宮城野一丁目公園	
	清水沼公園	

表 8.13-6 計画周辺の緑地の状況

	名称	主な植栽樹木	備考
a	国道 45 号	モミジバフウ	図 8.13-2 参照
b	元寺小路福室(その2)線	トチノキ	
c	宮城野通線	ケヤキ	
d	荒浜原町線	イチヨウ	
e	八軒小路原町坂下線	ケヤキ	
f	荒浜原町線	トウカエデ	
g	川内南小泉(その2)線	イチヨウ	

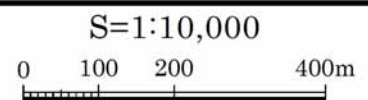


凡例

- : 対象事業計画地
- : 公園
- : ケヤキ
- : モミジバフウ
- : トウカエデ
- : トチノキ
- : イチョウ

出典:「仙台市公園・緑地位置図」(平成23年4月 仙台市)  
「せんだい街路樹マップ」

図 8.13-2 計画地周辺の公園，街路におけるみどりの状況



イ 緑化に関する基準等

計画地周辺の緑化に関する基準等は、以下に示すとおりである。

「杜の都 環境プラン(仙台市環境基本計画)」

概要は「6. 地域の概況」に示すとおりである。「杜の都 環境プラン(仙台市環境基本計画)」では、特に、緑化については以下の考え方が示されている。

- 環境配慮の方針
  - ・生態系の連続性を配慮し、緑化の推進や多様な生物の生息・生育の場となるビオトープ（生物の生息・生育空間）づくりに努める。
  - ・野生生物の本来の生息・生育域に配慮し、地域に由来する在来種を植樹するなど、外来種の移入をできるだけ避けるよう努める。
  - ・健全な水循環を確保するため、透水性舗装や駐車場舗装面の緑化、芝生による地表面被覆の改善により雨水の有効利用に努める。
- 定量目標
  - ・平成 32(2020) 年度におけるみどりの総量（指標：緑被率）について、現在の水準を維持・向上させる。

出典：「杜の都 環境プラン(仙台市環境基本計画)」(平成 23 年 3 月 仙台市)

「杜の都の環境をつくる条例」

「杜の都の環境をつくる条例」では、国の機関等の行為に対する緑化面積について表 8.13-7 に示す基準を定めている。本事業において当該基準に基づく緑化基準面積は約 5,600 m<sup>2</sup>(敷地面積：56,067 m<sup>2</sup>，建ぺい率 80%とすると敷地面積の 10%)となる。

また、敷地面積が 1,000 m<sup>2</sup>以上の場合には、事前に緑化計画書を提出し、市の認定を受けることとしている。

表 8.13-7 本事業における緑化基準面積（第 26 条関係）

行為者	行為を行う区域	法定建ぺい率	必要な緑化率
国 地方公共団体	市街化区域のうち 商業地域 近隣商業地域	80%	10%
	上記以外		20%

出典「杜の都の環境をつくる条例施行規則 別表第 1 市の行為に係る緑化基準面積（第 26 条関係）」

(平成 18 年 9 月 14 日仙台市規則第 84 号)

緑化手法については、単に面積だけの確保を目的とするのではなく、より効果的に質の高い緑化が図れるよう、次の指導がなされている。

- 地表面・接道部緑化
  - 市民の目にふれるみどりを増やすため、地表面の緑化を優先的に計画し、かつ道路に接する部分に緑化すること。
- 樹木による緑化
  - 継続的、効果的な緑化を促進するため、樹木による緑化を基本とする。
- 多層緑化
  - 高木・中木と低木・地被類などの組み合わせによる緑化。
- 多様な郷土種の活用
  - 地域の生態系に配慮した地域産の郷土種による緑化。



「仙台市みどりの基本計画」

「仙台市みどりの基本計画」の概要は「地域の概況」に示すとおりである。「仙台市みどりの基本計画」では、仙台都市部緑化重点地区における仙台市の緑化計画の方針として、以下の2点を挙げている。

緑化計画の方針1：みどりの創出とネットワークの形成

- ・市街地のみどりの回廊の主要な10路線については、沿道の民有地と一体的な緑化を推進し、緑のネットワークを形成する。主要な10路線の平均緑視率の中長期的な目標を30%以上とする。
- ・みどりのネットワークの拠点となる公園の再整備を行い、安全で安心な憩いの場やイベント空間を創出する。また、公共施設の緑化を充実する。
- ・公園が不足している地域では、土地利用を踏まえながら公園整備の検討を行う。
- ・民間建築物等の建替えや再開発等の際に、安らぎや潤い、景観などの都市の快適性の向上に効果的な緑化を促進する。
- ・地域性や歴史性などに配慮した、個性と魅力ある公園や街路樹などの整備を行う。

緑化計画の方針2：緑の保全と活用

- ・「杜の都」の印象を高める公園や街路樹などのみどりの質の向上を図る。また、オープンカフェや公共的な様々なイベントなどの都市のにぎわいを創出する空間としての活用を図る。
- ・広瀬川の清流を守る条例に基づき、市街地を流れる広瀬川の河川環境の保全を図るとともに、市民が水と親しめる環境づくりを推進する。
- ・公園や街路樹のみどり、広瀬川の自然などについて、学校教育や社会教育の素材としての活用を図る。

出典：「仙台市みどりの基本計画」(仙台市 平成24年)

また、百年の杜づくりプロジェクトの成果目標として、次の事項を挙げている。

目 標	指 標	平成22年度 (現況)	平成32年度 (目標)
みどりの骨格充実	市街化区域内の民有地の緑化面積	21.86 ha	50ha 増/9年
	市街化区域内の森林地面積	3,836 ha(21年度)	現状維持
「百年の杜」シボリア形成	仙台都市緑地重点化地区内緑被率	11.7%(21年度)	13%
	仙台都市部10路線平均緑視率	26.8%(20年度)	30%

ウ 現地調査

計画地内のみどりの状況

計画地内の植物の生育状況の調査結果を表 8.13-8, 確認された植物リストを表 8.13-9 に示す。夏季調査では54科117種, 秋季調査では52科125種, 春季調査では37科92種の植物が確認された。

表 8.13-8 調査結果(現地調査:植物(植物確認科種数))

分類群		夏季		秋季		春季		合計		
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	
シダ植物門		1	1	0	0	1	1	2	2	
種子植物門	裸子植物亜門	5	13	5	13	5	13	5	13	
	被子植物亜門	双子葉植物綱	30	56	31	56	18	42	35	78
		離弁花類亜綱	11	27	10	30	9	26	13	45
	単子葉植物綱	7	20	6	26	4	10	7	32	
合計		54科	117種	52科	125種	37科	92種	62科	170種	

表 8.13-9-1 調査結果 (現地調査:植物(確認種リスト 1/3))

No.	科名	種名	学名	調査時期			備考
				夏季	秋季	春季	
シダ植物							
1	トクサ	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>				
2	メシダ	イヌワラビ	<i>Athyrium niponicum</i>				
種子植物・裸子植物							
3	イチヨウ	イチヨウ	<i>Ginkgo biloba</i>				植栽・逸出
4	マツ	モミ	<i>Abies firma</i>				重要種, 植栽・逸出
5		ヒマラヤスギ	<i>Cedrus deodara</i>				植栽・逸出
6		アカマツ	<i>Pinus densiflora</i>				植栽・逸出
7	スギ	スギ	<i>Cryptomeria japonica</i>				植栽・逸出
8		メタセコイヤ	<i>Metasequoia glyptostroboides</i>				植栽・逸出
9	ヒノキ	ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>				植栽・逸出
10		サウラ	<i>Chamaecyparis pisifera</i>				植栽・逸出
11		オウゴンシノブヒバ	<i>Chamaecyparis pisifera</i> 'Plumosa Aurea'				植栽・逸出
12		カイヅカイブキ	<i>Juniperus chinensis</i> 'Kaizuka'				植栽・逸出
13		ネズ	<i>Juniperus rigida</i>				植栽・逸出
14	イチイ	キャラボク	<i>Taxus cuspidata</i> var. <i>nana</i>				植栽・逸出
15		カヤ	<i>Torreya nucifera</i>				重要種, 植栽・逸出
種子植物・被子植物・双子葉植物・離弁花類							
16	ヤナギ	セイヨウハコヤナギ	<i>Populus nigra</i> var. <i>italica</i>				植栽・逸出
17		ウンリュウヤナギ	<i>Salix matsudana</i> f. <i>tortuosa</i>				植栽・逸出
18	カバノキ	アカシデ	<i>Carpinus laxiflora</i>				重要種, 植栽・逸出
19	ブナ	クリ	<i>Castanea crenata</i>				植栽・逸出
20		クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>				植栽・逸出
21		コナラ	<i>Quercus serrata</i>				植栽・逸出
22	ニレ	エノキ	<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>				重要種, 植栽・逸出
23		ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>				重要種, 植栽・逸出
24	クワ	ヤマグワ	<i>Morus australis</i>				
25	タデ	スイバ	<i>Rumex acetosa</i>				
26		ヒメスイバ	<i>Rumex acetosella</i>				帰化植物
27		ギシギシ	<i>Rumex japonicus</i>				
28		エゾノギシギシ	<i>Rumex obtusifolius</i>				帰化植物
29	ヤマゴボウ	ヤマゴボウ	<i>Phytolacca esculenta</i>				帰化植物
30	スベリヒユ	スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>				帰化植物
31	ナデシコ	オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>				帰化植物
32		ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>				帰化植物
33		コハコベ	<i>Stellaria media</i>				
34		ミドリハコベ	<i>Stellaria neglecta</i>				
35	アカザ	シロザ	<i>Chenopodium album</i>				
36	ヒユ	ヒカゲイノコズチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>				
37	モクレン	コブシ	<i>Magnolia praecocissima</i>				植栽・逸出
38	パンレイシ	ポポー	<i>Asimina triloba</i>				植栽・逸出
39	ドクダミ	ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>				
40	ツバキ	ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>				重要種, 植栽・逸出
41		サザンカ	<i>Camellia sasanqua</i>				植栽・逸出
42		ナツツバキ	<i>Stewartia pseudocamellia</i>				重要種, 植栽・逸出
43	アブラナ	シロイヌナズナ	<i>Arabidopsis thaliana</i>				帰化植物
44		ナズナ	<i>Capsella bursapastoris</i> var. <i>triangularis</i>				重要種
45		タネツケバナ	<i>Cardamine flexuosa</i>				
46		ミチタネツケバナ	<i>Cardamine hirsuta</i>				帰化植物
47		イヌガラシ	<i>Rorippa indica</i>				
48	スズカケノキ	スズカケノキ	<i>Platanus orientalis</i>				植栽・逸出
49	ユキノシタ	アジサイ属の一種	<i>Hydrangea</i> sp.				植栽・逸出
50	バラ	ヘビイチゴ	<i>Duchesnea chrysantha</i>				
51		ピワ	<i>Eriobotrya japonica</i>				植栽・逸出
52		セイヨウバクチノキ	<i>Laurocerasus officinalis</i>				植栽・逸出
53		レッドロビン	<i>Photinia x fraseri</i> 'Red Robin'				植栽・逸出
54		ヒメヘビイチゴ	<i>Potentilla centigrana</i>				
55		カンヒザクラ	<i>Prunus campanulata</i>				植栽・逸出
56		ヤマザクラ	<i>Prunus jamasakura</i>				植栽・逸出
57		サトザクラ	<i>Prunus lannesiana</i>				植栽・逸出
58		オオシマザクラ	<i>Prunus lannesiana</i> var. <i>speciosa</i>				植栽・逸出
59		イトザクラ	<i>Prunus pendula</i>				植栽・逸出
60		エドヒガン	<i>Prunus pendula</i> f. <i>ascendens</i>				植栽・逸出
61		ソメイヨシノ	<i>Prunus x yedoensis</i>				植栽・逸出
62		ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>				

注 1) ○は確認種を示す。

2) 備考欄 「重要種」.....平成 22 年度仙台市自然環境基礎調査の自然環境保全上重要な種

3) 備考欄 「植栽・逸出」...明らかに栽培されているか栽培の目的で持ち込んだ外来植物が野生化したと考えられる種

4) 備考欄 「帰化植物」.....移入された外来植物が野生の状態でも生育している種

5) 分類順, 種名及び学名は「河川水辺の国勢調査 平成 24 年度生物種リスト」(平成 24 年 9 月, 国土交通省)によるものとし, 同リストに記載のない種は「BG Plants 和名・学名インデックス(YList)」(平成 23 年 11 月, 米倉浩司・梶田忠)に基づいた。

表 8.13-9-2 調査結果 (現地調査: 植物(確認種リスト 2/3))

No.	科名	種名	学名	調査時期			備考
				夏季	秋季	春季	
63	マメ	イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>				帰化植物
64		ミヤギノハギ	<i>Lespedeza thunbergii</i>				植栽・逸出
65		ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i>				帰化植物
66		ムラサキツメクサ	<i>Trifolium pratense</i>				帰化植物
67		シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>				帰化植物
68		ヤハズエンドウ	<i>Vicia angustifolia</i>				
69		フジ	<i>Wisteria floribunda</i>				
70	カタバミ	カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>				
71		ウスアカカタバミ	<i>Oxalis corniculata</i> f. <i>tropaeoloides</i>				
72		エゾタチカタバミ	<i>Oxalis fontana</i>				
73	フウロソウ	ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>				
74	トウダイグサ	エノキグサ	<i>Acalypha australis</i>				
75		コニシキソウ	<i>Euphorbia supina</i>				帰化植物
76	ニガキ	シンジュ	<i>Ailanthus altissima</i>				帰化植物
77	ウルシ	ヌルデ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>chinensis</i>				
78	カエデ	イロハモミジ	<i>Acer palmatum</i>				
79		オオモミジ	<i>Acer palmatum</i> var. <i>amoenum</i>				植栽・逸出
80		コハウチワカエデ	<i>Acer sieboldianum</i>				植栽・逸出
81	モチノキ	イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i>				重要種・植栽・逸出
82	ニシキギ	ニシキギ	<i>Euonymus alatus</i>				植栽・逸出
83		ツルマサキ	<i>Euonymus fortunei</i> var. <i>radicans</i>				
84		マサキ	<i>Euonymus japonicus</i>				植栽・逸出
85	ブドウ	ノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i>				
86		ヤブガラシ	<i>Cayratia japonica</i>				
87	アオギリ	アオギリ	<i>Firmiana simplex</i>				植栽・逸出
88	スマレ	タチツボスマレ	<i>Viola grypoceras</i>				
89	ウリ	カラスウリ	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>				
90	ミソハギ	サルスベリ	<i>Lagerstroemia indica</i>				植栽・逸出
91	ウコギ	ヤツデ	<i>Fatsia japonica</i>				植栽・逸出
92	セリ	オオチドメ	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>				
93		チドメグサ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>				
種子植物・被子植物・双子葉植物・合弁花類							
94	ツツジ	ドウダンツツジ	<i>Enkianthus perulatus</i>				植栽・逸出
95		アブラツツジ	<i>Enkianthus subsessilis</i>				植栽・逸出
96		オオムラサキ	<i>Rhododendron oomurasaki</i>				植栽・逸出
97		ツツジ属の一種 1	<i>Rhododendron</i> sp.1				植栽・逸出
98		ツツジ属の一種 2	<i>Rhododendron</i> sp.2				植栽・逸出
99	ツツジ属の一種 3	<i>Rhododendron</i> sp.3				植栽・逸出	
100	サクラソウ	コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i> f. <i>subsessilis</i>				
101	カキノキ	カキノキ	<i>Diospyros kaki</i>				植栽・逸出
102	モクセイ	トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>				植栽・逸出
103	ガガイモ	ガガイモ	<i>Metaplexis japonica</i>				
104	アカネ	ヤエムグラ	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>				
105		ヘクソカズラ	<i>Paederia scandens</i>				
106		アカネ	<i>Rubia argyi</i>				
107	ヒルガオ	ヒルガオ	<i>Calystegia japonica</i>				
108	シソ	ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>				
109		ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i>				帰化植物
110	ナス	クコ	<i>Lycium chinense</i>				
111		ヒヨドリジョウゴ	<i>Solanum lyratum</i>				
112		イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>				
113	ゴマノハグサ	トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>				
114		タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>				帰化植物
115		オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>				帰化植物
116	オオバコ	オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>				重要種
117		ヘラオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i>				帰化植物
118	スイカズラ	ヤマウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i>				植栽・逸出
119		ニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> ssp. <i>sieboldiana</i>				

注1) ○は確認種を示す。

- 備考欄 「重要種」……平成 22 年度仙台市自然環境基礎調査の自然環境保全上重要な種
- 備考欄 「植栽・逸出」…明らかに栽培されているか栽培の目的で持ち込んだ外来植物が野生化したと考えられる種
- 備考欄 「帰化植物」……移入された外来植物が野生の状態では生育している種
- 分類順, 種名及び学名は「河川水辺の国勢調査 平成 24 年度生物種リスト」(平成 24 年 9 月, 国土交通省)によるものとし, 同リストに記載のない種は「BG Plants 和名-学名インデックス(YList)」(平成 23 年 11 月, 米倉浩司・梶田忠)に基づいた。

表 8.13-9-3 調査結果 (現地調査:植物(確認種リスト 3/3))

No.	科名	種名	学名	調査時期			備考
				夏季	秋季	春季	
122		オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>				帰化植物
123		ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>				帰化植物
124		ハキタメギク	<i>Galinsoga ciliata</i>				帰化植物
125		ハハコグサ	<i>Gnaphalium affine</i>				
126		チチコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>				
127		ウラジロチチコグサ	<i>Gnaphalium spicatum</i>				帰化植物
128		ブタナ	<i>Hypochoeris radicata</i>				帰化植物
129		オオデシバリ	<i>Ixeris debilis</i>				
130		イワニガナ	<i>Ixeris stolonifera</i>				
131		ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>				帰化植物
132		セイトカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>				帰化植物
133		オニノゲシ	<i>Sonchus asper</i>				帰化植物
134		ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>				
135		ヒメジョオン	<i>Stenactis annuus</i>				帰化植物
136		エソタンポポ	<i>Taraxacum hondoense</i>				重要種
137		セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>				帰化植物
138		オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>				
種子植物・被子植物・単子葉植物							
139	ユリ	ノビル	<i>Allium grayi</i>				植栽・逸出
140		オモト	<i>Rohdea japonica</i>				植栽・逸出
141		ユッカ属の一種	<i>Yucca</i> sp.				植栽・逸出
142	ヤマノイモ	オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>				
143	イグサ	クサイ	<i>Juncus tenuis</i>				
144		スズメノヤリ	<i>Luzula capitata</i>				
145	ツククサ	ツククサ	<i>Commelina communis</i>				
146	イネ	カモジグサ	<i>Agropyron tsukushiense</i> var. <i>transiens</i>				
147		ハルガヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i>				帰化植物
148		イヌムギ	<i>Bromus catharticus</i>				帰化植物
149		カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i>				帰化植物
150		メヒシバ	<i>Digitaria ciliaris</i>				重要種
151		オヒシバ	<i>Eleusine indica</i>				
152		カゼクサ	<i>Eragrostis ferruginea</i>				重要種
153		コスズメガヤ	<i>Eragrostis poaeoides</i>				帰化植物
154		オニウシノケグサ	<i>Festuca arundinacea</i>				帰化植物
155		チガヤ	<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>				
156		ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>				
157		スズメノヒエ	<i>Paspalum thunbergii</i>				
158		チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i> f. <i>purpurascens</i>				
159		アズマネザサ	<i>Pleioblastus chino</i>				
160		スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>				
161		オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i>				帰化植物
162		アズマザサ	<i>Sasaella ramosa</i>				
163		アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i>				
164		キンエノコロ	<i>Setaria pumilla</i>				
165		ネズミノオ	<i>Sporobolus fertilis</i>				重要種
166		シバ	<i>Zoysia japonica</i>				重要種, 植栽・逸出
167	ヤシ	シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>				植栽・逸出
168	カヤツリグサ	ヒメクゲ	<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leiolepis</i>				
169		コゴメガヤツリ	<i>Cyperus iria</i>				
170		カヤツリグサ	<i>Cyperus microiria</i>				
62 科				117 種	125 種	92 種	

注 1) ○は確認種を示す。

- 備考欄 「重要種」.....平成 22 年度仙台市自然環境基礎調査の自然環境保全上重要な種
- 備考欄 「植栽・逸出」...明らかに栽培されているか栽培の目的で持ち込んだ外来植物が野生化したと考えられる種
- 備考欄 「帰化植物」.....移入された外来植物が野生の状態では生育している種
- 分類順, 種名及び学名は「河川水辺の国勢調査 平成 24 年度生物種リスト」(平成 24 年 9 月, 国土交通省)によるものとし, 同リストに記載のない種は「BG Plants 和名-学名インデックス(YList)」(平成 23 年 11 月, 米倉浩司・梶田忠)に基づいた。

### 8.13.2. 予測

#### (1) 存在による影響（樹木伐採後の状況及び工作物の等の出現） 【簡略化項目】

##### ア 予測内容

予測内容は、計画地内における緑の量の変化とした。

##### イ 予測地域等

予測地域は、対象事業により植物の生育状況への影響が懸念される計画地より 200m の範囲とした。

予測地点は、計画地とした。

##### ウ 予測対象時期

予測対象時期は、工事が完了した時点(平成 28 年)とした。

##### エ 予測方法

「植栽位置図」(宮城県資料)、現地調査結果(平成 26 年 12 月 26 日(木)に毎木調査を実施)及び本事業計画の重ね合わせによる改変部分の解析及び緑の量(緑被率)の算定とした。

##### 予測条件

##### a) 伐採木・保存木・移植木の選定

計画地は宮城野原公園の一部であることから、公園内の既存樹木について可能な限り保存、移植することとし、計画地内の既存樹木の評価を行い、以下に示す伐採木・保存木・移植木の選定を行った。

##### (ア) 自転車競技場の解体撤去工事に伴う伐採

本事業に先立ち、本計画とは別事業として、宮城県が平成 26 年 5 月 13 日(火)から自転車競技場の解体撤去工事を行った。工事に伴って、走路の外側の急斜面に生育する樹木(主にマツ類)は保存が困難であるため、伐採することとした。

移植についても検討を行ったが、急斜面に生育しているため根鉢の掘り取り確保が難しく、仮に掘り取ることができたとしても、移植先が同様な傾斜をもった地形でないと活着が困難となることが予想されるため、移植は困難と判断した。

(イ) 計画地内(自転車競技場を除く)の保存・移植・伐採の考え方

計画地内(自転車競技場を除く)は、外周部エリア、建物エリア及び駐車場エリアの3つに大きく分けられる。

工事の影響を受けない外周部エリアの樹木については原則保存するが、以下の伐採木の選定基準に該当する場合は伐採する。

建物エリア及び駐車場エリアについては、既存樹木を現況で保存することは困難なので、移植または伐採する。既存樹木はもともと植栽された樹木であるが、市民に親しまれ、樹形や樹勢が良く、修景的に効果の大きな樹木を主体に、移植木に選定している。

なお、移植木は計画地内に移植を行う。

伐採木の選定基準は以下のとおりである。

1. 虫害に冒されていたり、枝枯れや幹折れなどにより生育不良となっている樹木や過剰な剪定などにより本来の樹形から著しく樹形を損なっている樹木
2. トイレ等の既存施設に近接して生育しているため、施設の撤去工事等により保存が困難な樹木
3. 生育間隔が狭いため隣接する樹木同士が競合し健全な生育が確保できていない樹木
4. 環境省の要注外来植物に指定されている樹種(ハリエンジュ)や自然生態系に合わない樹種(シュロ等)
5. 樹勢が衰えているため移植してもその後の樹勢回復が期待できないなど保存・移植の難しい樹木
6. 歩行者の安全性に配慮した結果、伐採する樹木
7. ドクターヘリの飛行の障害となる樹木

現地調査(毎木調査)で把握した計画地内の既存樹木について、上記(ア)、(イ)に基づき選定した保存・移植・伐採木の数量を表 8.13-10 に、各樹木の一覧を表 8.13-11 に、各樹木の位置を図 8.13-3 に示す。

表 8.13-10 保存木・移植木・伐採木の数量

区分	保存	移植	伐採	合計	保存・移植率
自転車競技場	0	0	89	89	0%
計画地(自転車競技場を除く)	39	74	186	299	37.8%
外周部エリア	35	11	91	137	33.6%
建物エリア	0	11	14	25	44.0%
駐車場エリア	4	52	81	137	40.9%

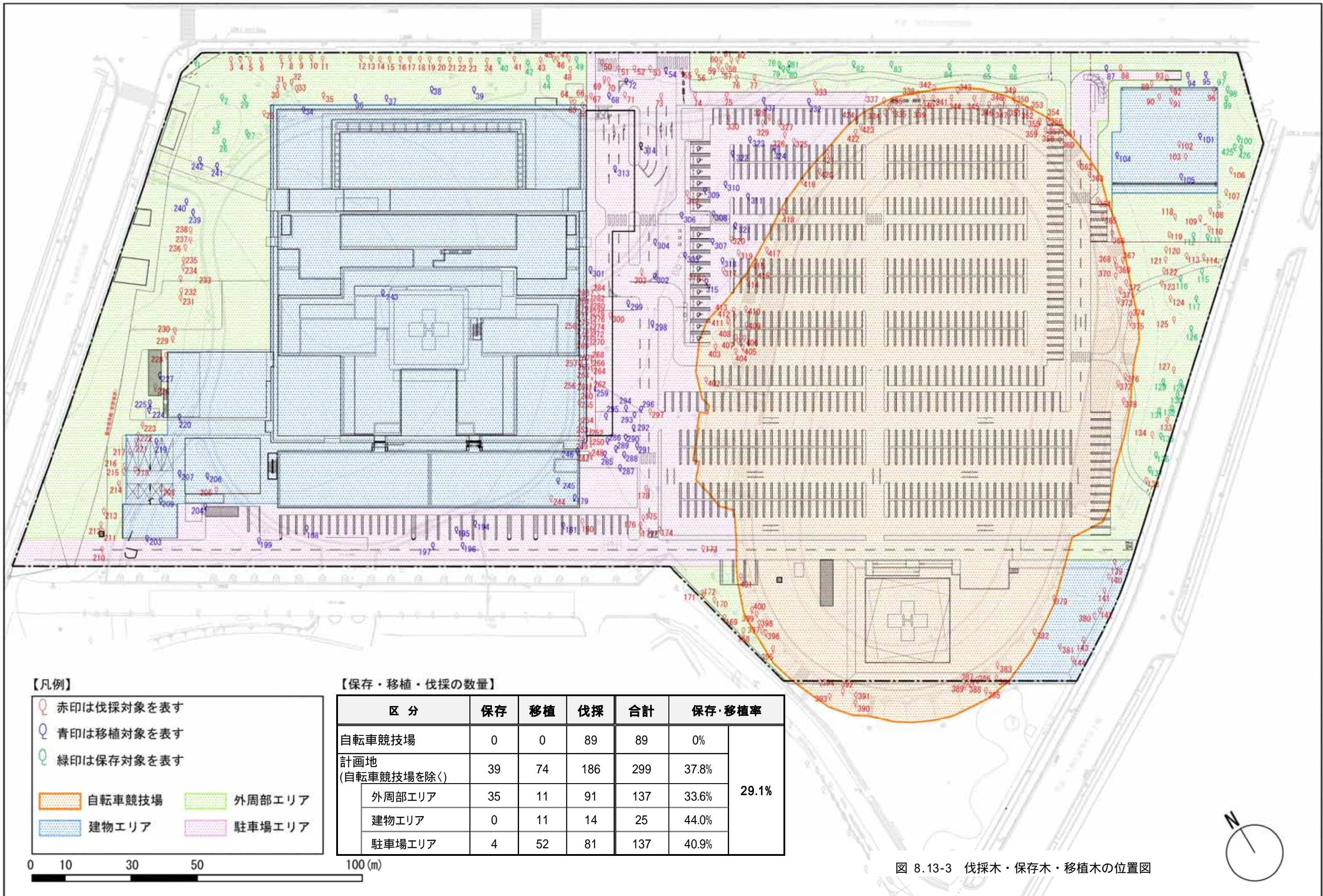


図 8.13-3 伐採木・保存木・移植木の位置図





表 8.13-11-1 樹木一覧表(1/9)

凡例				
番号		保存・移植・伐採区分		重要種等
建物・駐車場エリアの樹木	保存	現況保存する樹木		宮城県RL2013:宮城県レッドリスト2013
色無し 外周部エリアの樹木	移植	移植する樹木		A:仙台市_学術上重要な種
自転車競技場の樹木	伐採	伐採する樹木		B:仙台市_減少種
				C:仙台市_環境指標種
				D:仙台市_ふれあい保全種

No.	個体ID	種類	形状寸法 (m)			保存・移植・伐採区分	伐採理由	備考	重要種等
			H(高さ)	C(胸周)	W(枝張)				
1	1	ケヤキ	11.2	2.20	8.2	保存		(枝が架線・電柱と接触)	
2	2	クヌギ	12.5	1.60	5.7	保存			
3	3	ヒマラヤスギ	14.0	1.80	2.7	伐採	1		
4	4	ヒマラヤスギ	14.0	1.50	1.5	伐採	1		
5	5	ヒマラヤスギ	14.0	1.90	3.0	伐採	1		
6	6	ヒマラヤスギ	14.0	1.80	2.4	伐採	1		
7	7	ヒマラヤスギ	14.0	1.75	2.4	伐採	1		
8	8	ヒマラヤスギ	14.0	1.80	2.5	伐採	1		
9	9	ヒマラヤスギ	14.0	1.55	2.6	伐採	1		
10	10	ヒマラヤスギ	14.0	2.05	1.9	伐採	1		
11	11	ヒマラヤスギ	14.0	1.75	2.1	伐採	1		
12	12	ヒマラヤスギ	14.0	1.50	2.5	伐採	1		
13	13	ヒマラヤスギ	14.0	1.65	2.4	伐採	1		
14	14	ヒマラヤスギ	14.0	1.55	2.5	伐採	1		
15	15	ヒマラヤスギ	14.0	1.45	1.2	伐採	1		
16	16	ヒマラヤスギ	14.0	1.75	2.2	伐採	1		
17	17	ヒマラヤスギ	14.0	1.50	2.0	伐採	1		
18	18	ヒマラヤスギ	14.0	1.80	2.3	伐採	1		
19	19	ヒマラヤスギ	14.0	1.70	2.5	伐採	1		
20	20	ヒマラヤスギ	14.0	1.70	3.2	伐採	1		
21	21	ヒマラヤスギ	14.0	1.80	2.9	伐採	1		
22	22	ヒマラヤスギ	14.0	1.05	1.4	伐採	1		
23	23	ヒマラヤスギ	14.0	1.90	1.9	伐採	1		
24	24	ヒマラヤスギ	14.0	0.75	2.8	伐採	1		
25	25	クヌギ	12.4	1.35	6.5	保存			
26	26	クヌギ	12.0	1.45	7.4	保存			
27	27	クヌギ	10.0	1.50	5.6	保存			
28	28	クヌギ	10.0	1.50	8.5	伐採	2		
29	29	クヌギ	10.0	1.45	5.6	保存			
30	30	サワラ	12.0	0.85	3.3	伐採	2		
31	31	サワラ	12.0	0.80	3.3	伐採	2		
32	32	サワラ	12.0	0.75	1.7	伐採	2		
33	33	サワラ	12.0	1.15	3.7	伐採	2		
34	34	サルスベリ	5.6	0.65	4.3	移植			
35	35	ネズミモチ	3.5	0.15、0.25	1.1	伐採	5		

- 1: 伐採理由の番号は、p.8.13-12 伐採木の選定基準の番号を示す。  
 2: 個体 ID は、図 8.13-3 の図のナンバリングと一致する。

表 8.13-11-2 樹木一覧表(2/9)

No.	個体ID	種類	形状寸法 (m)			保存・移植・ 伐採区分	伐採理由	備考	重要種等
			H(高さ)	C(胸周)	W(枝張)				
36	36	サルスベリ	4.0	0.35	3.0	移植			
37	37	ケヤキ	9.6	1.25、1.60	9.2	移植			
38	38	サルスベリ	4.5	0.40	3.8	移植			
39	39	サルスベリ	5.0	0.55	3.7	移植			
40	40	ケヤキ	13.0	2.60	10.3	保存			
41	41	ケヤキ	13.0	2.60	9.6	伐採	6		
42	42	ケヤキ	13.0	1.95	8.8	保存			
43	43	ケヤキ	13.0	1.10、1.70	6.8	伐採	6		
44	44	ケヤキ	13.0	1.70	9.8	保存			
45	45	ヒノキ	4.0	0.25	2.0	伐採	3		
46	46	ヒノキ	8.0	0.50	1.9	伐採	3		
47	47	ヒノキ	8.0	1.00	2.8	伐採	3		
48	48	ヒノキ	11.0	0.90	3.2	伐採	3		
49	49	ケヤキ	13.0	2.10	9.0	保存			
50	50	ハリエンジュ	15.0	1.10	5.7	伐採	4		
51	51	ヒノキ	13.5	0.85、1.25	4.6	伐採	1		
52	52	ヒムロ	13.5	1.70	5.7	伐採	3		
53	53	サワラ	13.5	1.80	4.4	伐採	1		
54	54	ヒノキ	13.5	1.45	3.5	移植			
55	55	ヒムロ	13.5	1.85	5.4	伐採	3		
56	56	ヒノキ	13.5	1.60	4.5	伐採	6		
57	57	ヒサカキ	5.0	0.25	3.0	伐採	3		
58	58	ヒサカキ	5.0	0.25	2.3	伐採	3		
59	59	ヒサカキ	5.0	0.25	2.6	伐採	3		
60	60	ヒノキ	10.0	1.30	5.1	伐採	6		
61	61	ヒノキ	10.0	1.05	4.7	伐採	3		
62	62	ヒノキ	10.0	1.00	4.0	伐採	3		
63	63	サワラ	17.0	0.80	4.1	伐採	3		
64	64	サワラ	13.5	1.10	2.4	伐採	3		
65	65	イチヨウ	15.0	2.20	6.6	伐採	3		
66	66	サワラ	15.0	1.20	4.0	伐採	3		
67	67	エノキ	14.5	1.55	6.3	伐採	3		
68	68	サルスベリ	4.0	0.35	3.9	移植			
69	69	エドヒガン	14.0	0.50、0.60	8.7	伐採	1		
70	70	エドヒガン	14.0	0.70	2.0	伐採	1		
71	71	ヒノキ	15.0	1.30	3.9	伐採	3		
72	72	ケヤキ	14.0	0.65、0.85、1.10	7.5	移植			
73	73	ヒノキ	13.0	1.70	4.6	伐採	3		
74	74	ヒノキ	13.0	1.50	3.6	伐採	3		
75	75	ヒノキ	14.0	1.20	3.7	伐採	3		
76	76	ヒノキ	16.0	1.35、1.15	4.4	伐採	6		
77	77	サワラ	15.0	1.10	2.1	伐採	3		
78	78	ケヤキ	15.0	1.60	9.7	保存			
79	79	ケヤキ	15.0	1.45	6.4	保存			
80	80	ケヤキ	15.0	1.25	10.6	保存			
81	81	ケヤキ	15.0	2.00	7.8	保存			

1：伐採理由の番号は、p.8.13-12 伐採木の選定基準の番号を示す。

2：個体 ID は、図 8.13-3 の図のナンバリングと一致する。

表 8.13-11-3 樹木一覧表(3/9)

No.	個体ID	種類	形状寸法 (m)			保存・移植・ 伐採区分	伐採理由	備 考	重要種等
			H(高さ)	C(胸周)	W(枝張)				
82	82	ケヤキ	12.0	2.00	7.8	保存			
83	83	ケヤキ	12.0	1.85	7.3	保存			
84	84	ケヤキ	13.0	1.85	9.7	保存			
85	85	ケヤキ	13.0	1.70	5.5	保存			
86	86	ケヤキ	13.0	2.35	10.1	保存			
87	87	ケヤキ	14.0	1.20	9.8	移植			
88	88	ケヤキ	7.0	1.35	8.5	伐採	3		
89	89	サトザクラ	7.0	1.10	6.9	伐採	1		
90	90	サトザクラ	9.0	1.80	7.4	伐採	1		
91	91	サトザクラ	8.0	0.50	5.3	伐採	3		
92	92	ネズミサシ	11.0	1.00	2.1	伐採	5		
93	93	ネズミサシ	8.5	0.70	1.9	伐採	5		
94	94	ケヤキ	11.0	1.55	8.0	移植			
95	95	イロハモミジ	6.0	1.00	7.0	移植			
96	96	メタセコイア	15.0	2.00	6.7	伐採	3		
97	97	イロハモミジ	7.0	1.00	5.0	保存			
98	98	モミ	9.0	0.85	3.0	保存			A,B,C,D
99	99	ヤマザクラ	8.0	1.70	5.4	保存			
100	100	ヤマザクラ	9.0	1.90	5.4	保存			
101	101	ケヤキ	12.0	1.60、1.55	9.8	移植			
102	102	ヤマザクラ	9.0	1.10、0.90	8.0	伐採	3		
103	103	アカシデ	5.0	0.70	8.1	伐採	3		B,C,D
104	104	ケヤキ	12.4	3.00	10.6	移植			
105	105	ケヤキ	16.0	2.95	12.1	移植			
106	106	ヤマザクラ	5.0	1.10	4.0	伐採	3		
107	107	イロハモミジ	5.0	1.25	4.5	伐採	1		
108	108	オオシマザクラ	7.0	2.15	8.4	伐採	5		
109	109	イロハモミジ	5.0	0.90	3.9	伐採	3		
110	110	スギ	10.0	1.30	2.0	伐採	5		
111	111	オオシマザクラ	10.0	1.80	9.4	保存			
112	112	オオモミジ	10.0	1.35	6.1	保存			
113	113	エゴノキ	6.7	0.70	4.8	伐採	3		
114	114	スギ	10.0	0.90	2.0	伐採	5		
115	115	オオシマザクラ	8.0	2.10	8.0	保存			
116	116	カキ	7.0	0.70、0.55	3.2	保存			
117	117	オオシマザクラ	7.0	2.25	6.2	保存			
118	118	カヤ	12.0	1.10	4.0	伐採	3		A,B,D
119	119	カヤ	12.0	1.20	4.5	伐採	3		A,B,D
120	120	カヤ	11.0	1.20	4.6	伐採	3		A,B,D
121	121	ネズミサシ	10.0	0.95、0.75、0.85、0.50	3.3	伐採	3		
122	122	ヒノキ	10.0	1.00	3.7	伐採	3		
123	123	ヒノキ	10.0	1.10	2.9	伐採	3		
124	124	サワラ	13.0	1.80	4.2	伐採	3		
125	125	ヤマザクラ	6.4	1.45	5.1	伐採	3		
126	126	ヤマザクラ	6.0	1.05	5.4	保存			
127	127	ヤブツバキ	3.0	0.40	1.0	伐採	5		B,C,D

1: 伐採理由の番号は、p.8.13-12 伐採木の選定基準の番号を示す。

2: 個体 ID は、図 8.13-3 の図のナンバリングと一致する。

表 8.13-11-4 樹木一覧表(4/9)

No.	個体ID	種類	形状寸法 (m)			保存・移植・伐採区分	伐採理由	備考	重要種等
			H(高さ)	C(胸周)	W(枝張)				
128	128	オオシマザクラ	6.0	1.75	7.4	保存			
129	129	コハウチワカエデ	7.0	1.05	3.8	保存			
130	130	オオシマザクラ	6.0	1.65	8.2	保存			
131	131	シダレザクラ	8.0	1.30、1.50	5.3	保存			
132	132	オオシマザクラ	5.5	1.20	3.2	保存			
133	133	ジュウガツザクラ	4.0	0.55、0.55	3.5	伐採	1		
134	134	サトザクラ	6.0	0.65	3.0	伐採	3		
135	135	ジュウガツザクラ	6.0	0.65、0.55	3.0	保存			
136	136	オオシマザクラ	5.0	1.10、1.20	6.9	保存			
137	137	オオシマザクラ	5.0	2.05	7.9	保存			
138	138	ヤマザクラ	4.0	1.00	4.4	伐採	2		
139	173	サトザクラ	5.0	1.85、1.45、1.75	8.2	伐採	5		
140	174	オオシマザクラ	5.0	1.85	7.2	伐採	5		
141	175	ドウダンツツジ	1.8	0.15、0.15、0.10、0.10	1.0	伐採	5		
142	176	ドウダンツツジ	1.8	0.15、0.15、0.15、0.15	1.0	伐採	5		
143	177	ドウダンツツジ	1.8	0.20、0.15	1.0	伐採	5		
144	178	イヌツゲ	3.5	0.50、0.45	1.9	伐採	5		B.D
145	179	ヤマザクラ	6.0	0.95	5.4	移植			
146	180	オオシマザクラ	6.0	0.85、1.10	5.4	伐採	3		
147	181	ヤマザクラ	5.5	1.10	3.0	移植			
148	194	ヤマザクラ	8.0	1.45	6.2	移植			
149	195	シダレザクラ	6.0	1.50、1.25	5.0	移植			
150	196	ヤマザクラ	12.0	1.40	5.6	移植			
151	197	シダレザクラ	9.0	1.15、0.95	5.3	移植			
152	198	ケヤキ	10.0	1.40	4.0	移植		(片枝)	B.C.D
153	199	ハウモクレン	8.6	0.70	2.9	移植			
154	203	ケヤキ	11.0	2.10	4.4	移植			
155	204	ケヤキ	11.0	2.00	8.1	移植			
156	205	コブシ	4.0	0.50	3.0	伐採	3		
157	206	コブシ	5.0	0.85	3.5	移植			
158	207	コブシ	4.0	0.55	3.5	移植			
159	208	コブシ	5.0	0.75	3.5	伐採	3		
160	209	コブシ	5.0	0.75	3.5	移植			
161	210	ニワウルシ	13.0	1.90	4.9	伐採	5		
162	211	ニワウルシ	13.0	1.55	6.6	伐採	1		
163	212	イタリアホブラ	25.0	5.50	5.0	保存			
164	213	ニワウルシ	7.0	1.10	3.0	伐採	3		
165	214	アオギリ	7.0	0.85	3.0	伐採	3		
166	215	サワラ	12.0	1.30	2.0	伐採	5		
167	216	サワラ	11.0	1.20	2.0	伐採	5		
168	217	アオギリ	11.0	1.15	4.8	伐採	3		
169	218	コブシ	6.0	0.50	3.1	伐採	3		
170	219	コブシ	5.0	0.50	2.4	移植			
171	220	スズカケノキ	13.0	1.45	6.1	移植			
172	221	サワラ	12.0	1.00	2.0	伐採	5		
173	222	サワラ	12.0	0.95	2.0	伐採	5		

1：伐採理由の番号は、p.8.13-12 伐採木の選定基準の番号を示す。

2：個体 ID は、図 8.13-3 の図のナンバリングと一致する。

表 8.13-11-5 樹木一覧表(5/9)

No.	個体ID	種 類	形 状 寸 法 (m)			保存・移植・ 伐採区分	伐採理由	備 考	重要種等
			H(高さ)	C(胸周)	W(枝張)				
174	223	アオギリ	10.0	1.10	3.0	伐採	3		
175	224	サワラ	12.0	1.00	2.0	移植			
176	225	サワラ	12.0	1.00	2.0	移植			
177	226	アオギリ	11.0	1.25	4.0	伐採	3		
178	227	サワラ	11.0	0.95	2.0	移植			
179	228	アオギリ	11.0	1.35	4.0	伐採	3		
180	229	サワラ	13.0	1.20	2.5	伐採	5		
181	230	サワラ	13.0	1.25	2.5	伐採	5		
182	231	サワラ	13.0	1.30	2.0	伐採	5		
183	232	サワラ	13.0	1.10	2.0	伐採	5		
184	233	アオギリ	10.0	1.05	4.5	伐採	3		
185	234	サワラ	10.0	0.95	2.0	伐採	5		
186	235	サワラ	10.0	1.05	2.0	伐採	5		
187	236	アオギリ	7.0	0.80	4.0	伐採	3		
188	237	サワラ	10.0	0.90	2.0	伐採	5		
189	238	サワラ	10.0	0.90	2.0	伐採	5		
190	239	ケヤキ	13.0	2.25	9.1	移植			
191	240	サルスベリ	3.5	0.30	3.0	移植			
192	241	サルスベリ	3.5	0.40	2.8	移植			
193	242	イロハモミジ	7.0	0.90	3.4	移植			
194	243	ケヤキ	16.0	2.60	6.5	移植		(樹形やや不良)	
195	244	ヤマザクラ	5.0	0.70	5.4	伐採	3		
196	245	ヤマザクラ	10.0	1.45	5.7	移植			
197	246	ケヤキ	13.0	3.25	9.4	移植			
198	247	サワラ	5.0	1.00	2.0	伐採	3		
199	248	サワラ	6.0	0.45	2.0	伐採	3		
200	249	サワラ	7.0	0.55	2.0	伐採	3		
201	250	サワラ	9.0	0.70	2.0	伐採	3		
202	251	サワラ	9.0	0.75	2.0	伐採	3		
203	252	サワラ	13.0	1.20	2.0	伐採	3		
204	253	サワラ	11.0	1.15	2.0	伐採	3		
205	254	ニワウルシ	11.0	1.35	5.2	伐採	5		
206	255	ニワウルシ	13.0	1.95	5.2	伐採	5		
207	256	ニワウルシ	13.0	1.65	5.2	伐採	5		
208	257	ニワウルシ	13.0	1.60	5.2	伐採	1		
209	258	ニワウルシ	12.0	1.55	5.2	伐採	5		
210	259	イロハモミジ	8.0	0.80, 0.50, 0.90, 0.80	6.3	移植		(一部に洞あり)	
211	260	サワラ	2.5	0.20	1.0	伐採	3		
212	261	サワラ	4.0	0.35	1.0	伐採	3		
213	262	サワラ	3.0	0.25	1.0	伐採	3		
214	263	サワラ	16.0	1.30	3.0	伐採	3		
215	264	サワラ	16.0	1.25	3.0	伐採	3		
216	265	サワラ	15.0	1.00	3.0	伐採	3		
217	266	サワラ	14.0	1.00	3.0	伐採	3		
218	267	サワラ	14.0	1.10	3.0	伐採	3		
219	268	サワラ	15.0	1.15	3.0	伐採	3		

- 1: 伐採理由の番号は、p.8.13-12 伐採木の選定基準の番号を示す。  
2: 個体 ID は、図 8.13-3 の図のナンバリングと一致する。

表 8.13-11-6 樹木一覧表(6/9)

No.	個体ID	種類	形状寸法 (m)			保存・移植・伐採区分	伐採理由	備考	重要種等
			H(高さ)	C(胸周)	W(枝張)				
220	269	サワラ	15.0	1.35	3.0	伐採	3		
221	270	サワラ	15.0	1.10	3.0	伐採	3		
222	271	サワラ	15.0	0.80	3.0	伐採	3		
223	272	サワラ	15.0	1.00	3.0	伐採	3		
224	273	サワラ	15.0	0.95	3.0	伐採	3		
225	274	サワラ	15.0	0.90	3.0	伐採	3		
226	275	サワラ	15.0	1.05	3.0	伐採	3		
227	276	サワラ	15.0	0.80	3.0	伐採	3		
228	277	サワラ	15.0	0.90	3.0	伐採	3		
229	278	サワラ	15.0	0.85	3.0	伐採	3		
230	279	サワラ	15.0	0.95	3.0	伐採	3		
231	280	サワラ	15.0	0.85	3.0	伐採	3		
232	281	サワラ	15.0	0.90	3.0	伐採	3		
233	282	サワラ	16.0	1.05	3.0	伐採	3		
234	283	サワラ	16.0	1.10	3.0	伐採	3		
235	284	サワラ	16.0	1.65	3.0	伐採	3		
236	285	ヤブツバキ	3.5	0.50、0.40、0.25	3.0	移植			B,C,D
237	286	ヤブツバキ	3.8	0.50、0.40	2.0	移植			B,C,D
238	287	ヤブツバキ	3.5	0.50、0.70	2.5	移植			B,C,D
239	288	ヤブツバキ	4.0	0.50、0.25	2.5	移植			B,C,D
240	289	ヤブツバキ	3.5	0.45、0.35	2.5	移植			B,C,D
241	290	ヤブツバキ	4.0	0.25、0.25、0.50	2.5	移植			B,C,D
242	291	エドヒガン	9.0	2.30	9.2	移植			
243	292	ドウダンツツジ	3.0	—	1.5	移植		株立	
244	293	イチイ	7.0	1.05	3.0	移植			
245	294	エノキ	8.0	0.40	3.0	移植			
246	295	アカマツ	11.0	1.50	6.2	移植			
247	296	イロハモミジ	7.0	0.75	4.0	移植		(黄葉タイプ)	
248	297	チャボヒバ	7.0	0.70	2.0	伐採	3		
249	298	ヒマラヤスギ	21.0	2.65	7.2	移植			
250	299	ケヤキ	18.0	2.30	8.1	移植			
251	300	ズミ	2.5	0.25	2.0	伐採	1		
252	301	オオシマザクラ	7.0	2.05	8.1	移植			
253	302	ケヤキ	16.0	2.45	7.3	移植			
254	303	ナツツバキ	4.0	0.25	2.0	伐採	1		宮城県RL2013
255	304	ナツツバキ	5.0	0.30	2.0	移植			宮城県RL2013
256	305	ヒマラヤスギ	21.0	2.35	5.5	移植			
257	306	ヒマラヤスギ	20.0	2.40	6.7	移植			
258	307	ヒマラヤスギ	21.0	2.70	8.0	移植			
259	308	ヒマラヤスギ	21.0	2.25	6.5	移植			
260	309	ヒマラヤスギ	20.0	1.35	3.0	移植			
261	310	ヒマラヤスギ	21.0	1.35	3.5	移植			
262	311	ヒマラヤスギ	21.0	2.80	6.4	移植			
263	312	ナツツバキ	3.0	0.25	2.0	伐採	1		宮城県RL2013
264	313	コナラ	12.5	2.90	10.2	移植			
265	314	ケヤキ	15.0	2.45	7.4	移植			

1: 伐採理由の番号は、p.8.13-12 伐採木の選定基準の番号を示す。

2: 個体 ID は、図 8.13-3 の図のナンバリングと一致する。

表 8.13-11-7 樹木一覽表(7/9)

No.	個体ID	種 類	形 状 寸 法 (m)			保存・移植・ 伐採区分	伐採理由	備 考	重要種等
			H(高さ)	C(胸周)	W(枝張)				
266	315	イロハモミジ	7.5	0.80、1.20、1.35	7.1	移植			
267	316	ヤブツバキ	3.0	0.30、0.25	1.0	伐採	3		B,C,D
268	317	スズカケノキ	11.0	1.25	5.0	伐採	3		
269	318	イボタノキ	3.5	0.20、0.20、0.20、0.20	2.5	移植			
270	319	スズカケノキ	12.0	1.20	4.6	伐採	3		
271	320	ネズミモチ	2.5	0.20	1.0	伐採	3		B,C,D
272	321	イロハモミジ	7.0	0.85	5.4	移植			
273	322	ナツツバキ	7.0	0.45	3.0	移植			宮城県庁,2013
274	323	ヒマラヤスギ	21.0	1.45	4.0	移植			
275	324	ヒマラヤスギ	21.0	2.95	6.1	移植			
276	325	スズカケノキ	11.0	0.90、1.00	5.9	伐採	1		
277	326	イヌツゲ	3.5	0.25、0.45、0.45	2.5	伐採	3		B,D
278	327	ポーポーノキ	7.0	0.55、0.45、0.40	4.7	伐採	1		
279	328	サトザクラ	6.0	1.05、0.40、0.70	4.0	伐採	1		
280	329	ウメ	3.5	0.35	3.0	伐採	1		
281	330	エノキ	7.0	0.60	3.5	伐採	1		
282	331	ヒマラヤスギ	24.5	2.55	5.4	移植			
283	332	ヒマラヤスギ	24.0	2.10	6.2	移植			
284	333	サワラ	24.0	1.65	3.9	伐採	3		
285	334	アカマツ	10.0	1.90	5.0	伐採	2		
286	335	アカマツ	7.0	1.10	5.0	伐採	2		
287	336	アカマツ	10.0	0.70、0.90	3.0	伐採	2		
288	337	アカマツ	7.0	0.50、0.75	3.0	伐採	2		
289	338	アカマツ	10.0	1.60	3.0	伐採	2		
290	339	アカマツ	8.0	1.40	4.0	伐採	2		
291	340	ハリエンジュ	5.0	0.30	3.5	伐採	4		
292	341	アカマツ	8.0	1.35	5.0	伐採	2		
293	342	アカマツ	8.0	1.00	3.0	伐採	2		
294	343	アカマツ	6.0	0.45	1.0	伐採	2		
295	344	アカマツ	10.0	1.25	5.0	伐採	2		
296	345	アカマツ	8.0	1.25	4.5	伐採	2		
297	346	アカマツ	8.0	0.65、0.60	3.5	伐採	2		
298	347	アカマツ	6.0	0.90、0.90、0.90	4.5	伐採	2		
299	348	アカマツ	5.0	1.15	3.5	伐採	2		
300	349	アカマツ	6.5	0.70	2.5	伐採	2		
301	350	アカマツ	6.0	0.50、0.75	2.0	伐採	2		
302	351	アカマツ	6.0	0.80、1.00	4.0	伐採	2		
303	352	アカマツ	7.0	0.55	3.0	伐採	2		
304	353	アカマツ	12.0	1.05	3.0	伐採	2		
305	354	アカマツ	5.0	0.45	2.0	伐採	2		
306	355	アカマツ	12.0	1.10	3.0	伐採	2		
307	356	アカマツ	12.0	1.00	3.5	伐採	2		
308	357	アカマツ	7.0	0.70	3.0	伐採	2		
309	358	アカマツ	10.0	1.35	3.0	伐採	2		
310	359	アカマツ	7.0	1.20、1.05	5.0	伐採	2		
311	360	アカマツ	9.0	2.50	6.0	伐採	2		

- 1：伐採理由の番号は、p.8.13-12 伐採木の選定基準の番号を示す。  
 2：個体 ID は、図 8.13-3 の図のナンバリングと一致する。

表 8.13-11-8 樹木一覧表(8/9)

No.	個体ID	種類	形状寸法 (m)			保存・移植・伐採区分	伐採理由	備考	重要種等
			H(高さ)	C(胸周)	W(枝張)				
312	361	アカマツ	9.0	1.20	5.0	伐採	2		
313	362	アカマツ	6.0	1.40	4.0	伐採	2		
314	363	アカマツ	6.0	1.40、1.75	6.0	伐採	2		
315	364	アカマツ	10.0	1.20	4.0	伐採	2		
316	365	アカマツ	8.0	0.65、0.45、0.45	4.5	伐採	2		
317	366	アカマツ	8.0	1.80	4.5	伐採	2		
318	367	アカマツ	8.0	1.15	4.0	伐採	2		
319	368	アカマツ	7.0	1.50	4.0	伐採	2		
320	369	アカマツ	4.0	0.55	3.0	伐採	2		
321	370	アカマツ	8.0	1.80	4.0	伐採	2		
322	371	アカマツ	6.0	1.05	3.5	伐採	2		
323	372	アカマツ	10.0	1.00	2.5	伐採	2		
324	373	アカマツ	8.0	2.00	4.0	伐採	2		
325	374	アカマツ	10.0	1.35	4.0	伐採	2		
326	375	アカマツ	7.0	1.00	2.5	伐採	2		
327	376	アカマツ	3.5	0.80	2.0	伐採	2		
328	377	アカマツ	5.5	1.20	2.0	伐採	2		
329	378	アカマツ	3.5	1.20	2.0	伐採	2		
330	379	アカマツ	5.0	0.85	2.0	伐採	2		
331	382	アカマツ	4.0	1.10	3.0	伐採	2		
332	383	アカマツ	8.0	1.20	3.0	伐採	2		
333	384	アカマツ	10.0	1.05	4.0	伐採	2		
334	385	アカマツ	3.5	1.45	3.1	伐採	2		
335	386	ニワウルシ	4.0	0.25、0.25	1.0	伐採	2		
336	387	ニワウルシ	4.5	0.30、0.30、0.20	1.0	伐採	2		
337	388	ニワウルシ	5.0	0.35、0.35、0.35	1.0	伐採	2		
338	389	ニワウルシ	5.0	0.40、0.50、0.50、0.50	1.0	伐採	2		
339	390	アカマツ	8.0	1.40	5.3	伐採	2		
340	391	アカマツ	6.0	1.10	3.0	伐採	2		
341	392	アカマツ	3.5	0.85	3.0	伐採	2		
342	393	アカマツ	8.0	1.60	3.5	伐採	2		
343	394	アカマツ	7.0	1.80	4.0	伐採	2		
344	395	アカマツ	7.5	1.30	4.0	伐採	2		
345	396	アカマツ	5.0	1.20	4.0	伐採	2		
346	397	アカマツ	6.0	1.15	4.0	伐採	2		
347	398	アカマツ	5.0	0.90、0.50	4.0	伐採	2		
348	399	アカマツ	8.0	0.90	3.5	伐採	2		
349	400	アカマツ	6.0	1.85	5.0	伐採	2		
350	401	アカマツ	6.0	1.35	3.5	伐採	2		
351	402	スズカケノキ	10.0	1.35	4.0	伐採	1		
352	403	スズカケノキ	10.0	1.45	4.0	伐採	1		
353	404	アカマツ	4.5	1.35	4.5	伐採	2		
354	405	アカマツ	5.0	1.00	4.0	伐採	2		
355	406	アカマツ	3.5	1.10	2.5	伐採	2		
356	407	エノキ	3.5	0.35	2.0	伐採	2		
357	408	アカマツ	5.0	1.10、1.20	4.0	伐採	2		

1: 伐採理由の番号は、p.8.13-12 伐採木の選定基準の番号を示す。

2: 個体 ID は、図 8.13-3 の図のナンバリングと一致する。



表 8.13-11-9 樹木一覧表(9/9)

No.	個体ID	種類	形状寸法 (m)			保存・移植・ 伐採区分	伐採理由	備 考	重要種等
			H(高さ)	C(胸周)	W(枝張)				
358	409	アカマツ	6.0	1.95	4.0	伐採	2		
359	410	アカマツ	3.5	0.95	3.50	伐採	2		
360	411	シュロ	4.5	0.40	1.0	伐採	4		
361	412	シュロ	4.5	0.40	1.0	伐採	4		
362	413	シュロ	4.5	0.40	1.0	伐採	4		
363	414	アカマツ	8.5	1.35	5.5	伐採	2		
364	415	アカマツ	6.0	1.05	5.0	伐採	2		
365	416	アカマツ	7.0	1.65	4.5	伐採	2		
366	417	アカマツ	4.5	1.45	3.5	伐採	2		
367	418	アカマツ	6.5	1.45、1.40	4.5	伐採	2		
368	419	アカマツ	6.5	1.20	2.5	伐採	2		
369	420	アカマツ	4.5	1.40	3.0	伐採	2		
370	421	アカマツ	10.0	1.10	2.0	伐採	2		
371	422	アカマツ	9.0	0.65、0.80、0.70、1.15	5.0	伐採	2		
372	423	アカマツ	10.0	1.00	4.0	伐採	2		
373	424	アカマツ	7.0	0.70	3.0	伐採	2		
374	425	セイヨウバクチノキ	4.0	0.30	2.0	保存			
375	426	ザクロ	4.0	0.20	1.5	保存			
376	139	オオシマザクラ	6.0	1.20、1.80	7.6	伐採	7		
377	140	オオシマザクラ	6.0	2.10	8.0	伐採	7		
378	141	オオシマザクラ	6.0	1.70	8.0	伐採	7		
379	142	オオシマザクラ	5.0	0.95、1.00、0.70	4.5	伐採	7		
380	143	オオシマザクラ	5.0	2.05	7.1	伐採	7		
381	144	サトザクラ	5.0	1.00	4.3	伐採	7		
382	168	シダレサクラ	10.0	1.60、1.55	6.8	伐採	7		
383	169	シュロ	3.5	0.70	1.0	伐採	7		
384	170	イヌザクラ	5.0	0.90	3.3	伐採	7		
385	171	エノキ	5.0	0.25	1.5	伐採	7		
386	172	エノキ	5.0	0.45	3.9	伐採	7		
387	380	ヤブツバキ	3.5	0.70	2.0	伐採	7		
388	381	ウンリュウヤナギ	5.0	0.55、0.35、0.30	2.0	伐採	7		

1：伐採理由の番号は、p.8.13-12 伐採木の選定基準の番号を示す。

2：個体IDは、図8.13-3の図のナンバリングと一致する。

b) 現況及び伐採後の樹種別の本数

現況及び伐採後における樹種別の本数を表 8.13-12 に、現況及び伐採後(保存・移植後)の樹高ヒストグラムを図 8.13-4 に示す。

表 8.13-12 現況及び伐採後における樹種別の本数

種名	現況	伐採後				(残存率)
		保存	移植	伐採	伐採後	
アオギリ	7			7	0	0.0%
アカシデ	1			1	0	0.0%
アカマツ	79		1	78	1	1.3%
イタリアポプラ	1			1	0	0.0%
イチイ	1		1		1	100.0%
イチョウ	1			1	0	0.0%
イヌザクラ	1			1	0	0.0%
イヌツゲ	2			2	0	0.0%
イボタノキ	1		1		1	100.0%
イロハモミジ	9	1	6	2	7	77.8%
ウメ	1			1	0	0.0%
ウンリュウヤナギ	1			1	0	0.0%
エゴノキ	1			1	0	0.0%
エドヒガン	3		1	2	1	33.3%
エノキ	6		1	5	1	16.7%
オオシマザクラ	17	8	1	8	9	52.9%
オオモミジ	1	1			1	100.0%
カキ	1	1			1	100.0%
カヤ	3			3	0	0.0%
クヌギ	6	5		1	5	83.3%
ケヤキ	33	14	16	3	30	90.9%
コナラ	1		1		1	100.0%
コハウチワカエデ	1	1			1	100.0%
コブシ	7		4	3	4	57.1%
ザクロ	1	1			1	100.0%
サトザクラ	7			7	0	0.0%
サルスベリ	7		7		7	100.0%
サワラ	58		3	55	3	5.2%
シダレサクラ	4	1	2	1	3	75.0%
ジュウガツザクラ	2	1		1	1	50.0%
シュロ	4			4	0	0.0%
スギ	2			2	0	0.0%
スズカケノキ	6		1	5	1	16.7%
ズミ	1			1	0	0.0%
セイヨウバクチノキ	1	1			1	100.0%
チャボヒバ	1			1	0	0.0%
ドウダンツツジ	4		1	3	1	25.0%
ナツツバキ	4		2	2	2	50.0%
ニワウルシ	12			12	0	0.0%
ネズミサシ	3			3	0	0.0%
ネズミモチ	1			1	0	0.0%
ハクモクレン	1		1		1	100.0%
ハリエンジュ	2			2	0	0.0%
ヒサカキ	3			3	0	0.0%
ヒノキ	17		1	16	1	5.9%
ヒマラヤスギ	33		12	22	11	33.3%
ヒムロ	2			2	0	0.0%
フユザクラ	1				1	100.0%
ポーポーノキ	1			1	0	0.0%
メタセコイア	1			1	0	0.0%
モミ	1	1			1	100.0%
ヤブツバキ	10		6	4	6	60.0%
ヤマザクラ	13	3	5	5	8	61.5%
	388	39	74	275	113	29.1%

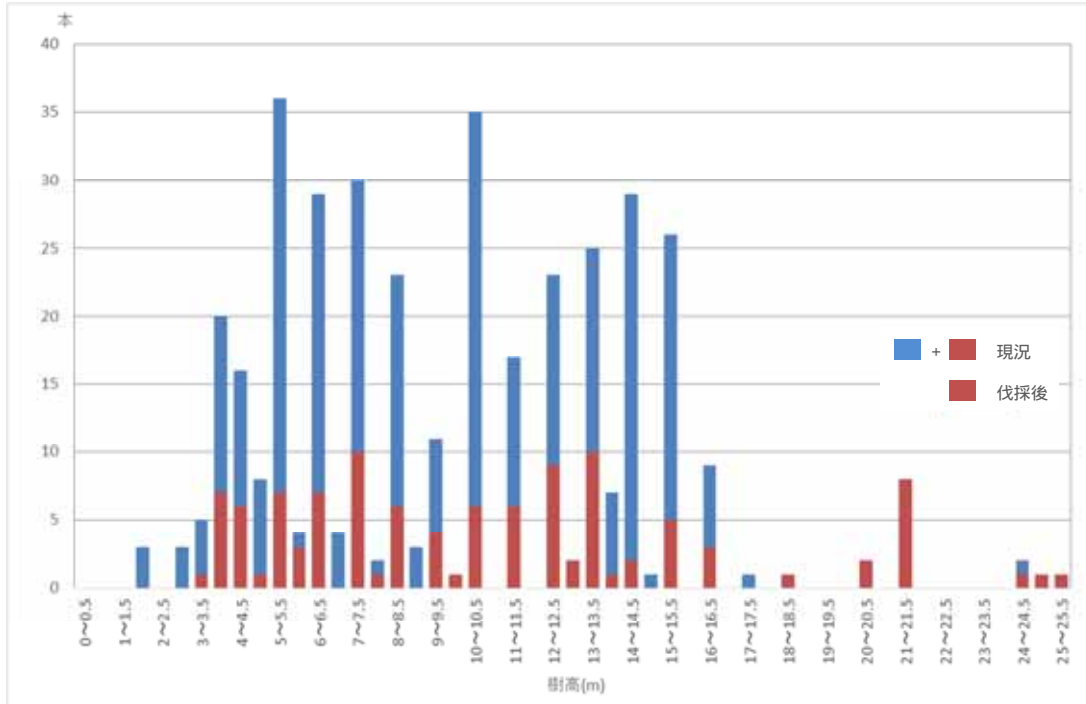


図 8.13-4 現況及び伐採後(保存・移植後)の樹高ヒストグラム

c) 新植木

本事業における新植用の主な樹種は、表 8.13-13 に示すとおりである。

表 8.13-13 新植用の主な樹種

区分	植栽予定樹種	科名	属名	常緑/落葉	郷土種
高木	イロハモミジ	カエデ	カエデ	落葉	
	ウミズザクラ	バラ	ウミズザクラ	落葉	
	クスノキ	クスノキ	ニッケイ	常緑	
	ケヤキ	ニレ	ケヤキ	落葉	
	コブシ	モクレン	モクレン	落葉	
	サトザクラ	バラ	サクラ	落葉	
	ソメイヨシノ	バラ	サクラ	落葉	
	シラカシ	ブナ	コナラ	常緑	
	タブノキ	クスノキ	タブノキ	常緑	
	ナツツバキ	ツバキ	ナツツバキ	落葉	
	ナナカマド	バラ	ナナカマド	落葉	
	ハナミズキ	ミズキ	ミズキ	落葉	
	ホオノキ	モクレン	モクレン	落葉	
	リョウブ	リョウブ	リョウブ	落葉	
中木	イヌツゲ	モチノキ	モチノキ	常緑	
	ウメモドキ	モチノキ	モチノキ	落葉	
	ガマズミ	スイカズラ	ガマズミ	落葉	
	サザンカ	ツバキ	ツバキ	常緑	
	シャクナゲ	ツツジ	ツツジ	常緑	
	ニオイヒバ	ヒノキ	クロベ	常緑	
	ヒサカキ	ヒサカキ	ヒサカキ	常緑	
	ベニカナメモチ	バラ	カナメモチ	常緑	
ヤブツバキ	ツバキ	ツバキ	常緑		
低木	ウツギ	アジサイ	ウツギ	落葉	
	オオムラサキツツジ	ツツジ	ツツジ	常緑	
	ニシキギ	ニシキギ	ニシキギ	落葉	
	ヒメアオキ	ガリア	アオキ	常緑	
	ヒラドツツジ	ツツジ	ツツジ	常緑	
	ミヤギノハギ	マメ	ハギ	落葉	
	ミヤマシキミ	ミカン	ミヤマシキミ	常緑	
	ヤマツツジ	ツツジ	ツツジ	半常緑	
	リュウキュウツツジ	ツツジ	ツツジ	常緑	
地被類	アスチルベ	ユキノシタ	チダケサシ	落葉	
	クマザサ	イネ	ササ	常緑	
	コグマザサ	イネ	アズマザサ	常緑	
	ノシバ	イネ	シバ	落葉	
	フィリヤブラン	キジカクシ	ヤブラン	常緑	
	フッキソウ	ツゲ	フッキソウ	常緑	
	ムスカリ	ユリ	ムスカリ	落葉	

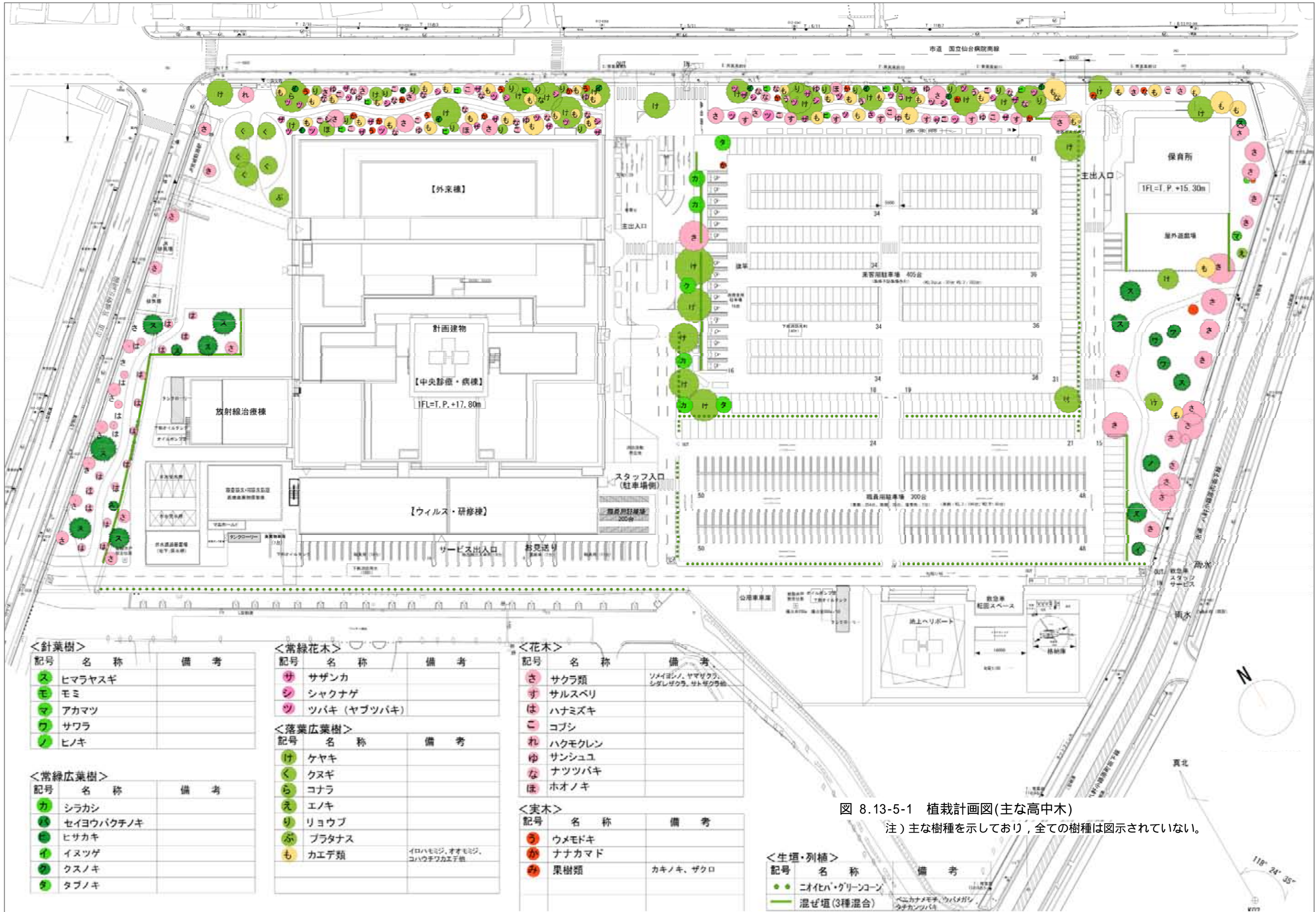
郷土種：「宮城県植物目録 2000」(平成 13 年，宮城植物の会)に記載されている種のうち，全県的に分布する種とした。

#### d) 植栽計画の考え方

本事業では、「杜の都 環境プラン（仙台市環境基本計画）」に定める市街地地域における環境配慮の指針に基づき、街全体の景観形成や動植物の生息・生育に配慮した面的な広がりのある緑のネットワークの創出を目指すとともに、風況や沿道騒音の抑制も考慮した植栽計画とした。植栽計画図は、図 8.13-5 に示すとおりであり、植栽計画の考え方は、以下のとおりである。

- ・中心エリアは駐車場の圧迫感を軽減させるように生け垣と葉張りの狭い高木で囲う。高木には、移植するケヤキなどを活用する。
- ・中心エリア・エントランスに四季の花壇を設ける。
- ・JR 宮城野原駅から野球場に向かう西エリアの道路沿いには、サクラを配して景観効果を高める。
- ・北エリアは市民に開放した散策路として位置づけ、保存するケヤキ、クヌギ等、移植するイロハモミジ、サクラ類、サルスベリ、ツバキ等を活用するとともに、草木・花、宿根草等により地被を覆うことで色彩が感じられる空間を創出する。また、イヌツゲ、ヒサカキ、ウメドキ、ナナカマド、ガマズミ、ニシキギなどの野鳥の食餌植物を選定する。
- ・東エリアは、比較的広い空間が取れるため、芝生の広がりや樹群で構成する。芝には在来種のノシバを選定し、樹群には、保存するサクラ類、移植するサワラ、ヒマラヤスギを活用する。
- ・南エリアは、ヘリコプターの発着に配慮して、低木による寄植えを主体とする。
- ・東エリアには、宮城県の花(ミヤギノハギ)・仙台市の花(ハギ)であり、キタキチョウ・ルリシジミ・ツバメシジミ・ウラナミシジミ・コミシジミ・ウラギンシジミなど多くのチョウ類が好むミヤギノハギを植栽する。また、中央エリアにはアゲハチョウ類が好むツツジ類・ウツギ(吸蜜)、クスノキ・タブノキ(食樹)を植栽する。
- ・モンキチョウやツバメシジミなどのチョウ類が好むシロツメクサを含む現存の土壌を活用して芝生に用いる。なお、シロツメクサは芝生と同様に管理し、完全に除去しないように留意する。

吸蜜は蝶の成虫が蜜を吸うことができる樹種、食草・食樹は蝶の幼虫が好む草本及び樹種のこと。  
ミヤギノハギは、吸蜜・食樹の両方の対象となる。







<針葉樹>

記号	名称	備考
ス	ヒマラヤスギ	
モ	モミ	
マ	アカマツ	
フ	サワラ	
ノ	ヒノキ	

<常緑広葉樹>

記号	名称	備考
カ	シラカシ	
セ	セイヨウバクチノキ	
ヒ	ヒサカキ	
イ	イヌツゲ	
ク	クスノキ	
タ	タブノキ	

<常緑花木>

記号	名称	備考
サ	サザンカ	
シ	シャクナゲ	
ツ	ツバキ (ヤブツバキ)	

<落葉広葉樹>

記号	名称	備考
ケ	ケヤキ	
ク	クヌギ	
コ	コナラ	
エ	エノキ	
リ	リョウブ	
ブ	プラタナス	
カ	カエデ類	イロハカエデ, オオモミジ, コハウチフカエデ他

<花木>

記号	名称	備考
サ	サクラ類	ソメイヨシノ, ヤマザクラ, シダレザクラ, サトザクラ他
サ	サルスベリ	
ハ	ハナミズキ	
コ	コブシ	
ハ	ハクモクレン	
サ	サンシュユ	
ナ	ナツツバキ	
ホ	ホオノキ	

<実木>

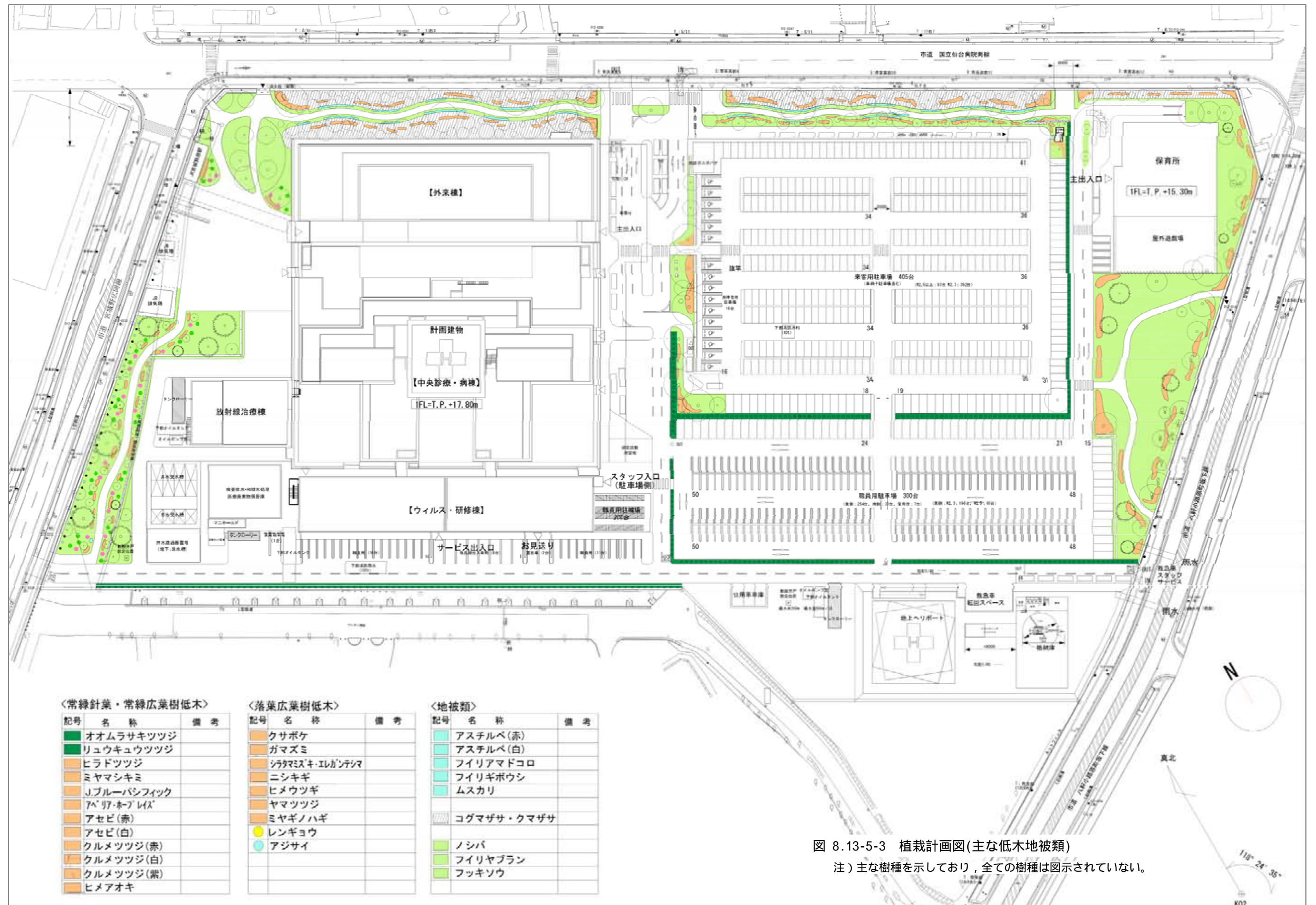
記号	名称	備考
ウ	ウメドキ	
ナ	ナナカマド	
カ	果樹類	カキノキ, ザクロ

移植木  
 保存木  
 新植木

図 8.13-5-2 植栽計画図(主な高中木)  
(保存木・移植木・新植木別)







＜常緑針葉・常緑広葉樹低木＞			＜落葉広葉樹低木＞			＜地被類＞		
記号	名称	備考	記号	名称	備考	記号	名称	備考
■	オオムラサキツツジ		■	クサボケ		■	アスチルベ(赤)	
■	リュウキュウツツジ		■	ガマズミ		■	アスチルベ(白)	
■	ヒラドツツジ		■	シタマシキ・エレガントシマ		■	フィリアマドコロ	
■	ミヤマシキミ		■	ニシキギ		■	フィリギボウシ	
■	J.ブルーバシフィック		■	ヒメウツギ		■	ムスカリ	
■	アベリア・ネブレイス		■	ヤマツツジ		■	コグマザサ・クマザサ	
■	アセビ(赤)		■	ミヤギノハギ		■	ノシバ	
■	アセビ(白)		●	レンギョウ		■	フィリヤブラン	
■	クメツツジ(赤)		●	アジサイ		■	フッキソウ	
■	クメツツジ(白)							
■	クメツツジ(紫)							
■	ヒメアオキ							

図 8.13-5-3 植栽計画図(主な低木地被類)  
 注) 主な樹種を示しており、全ての樹種は図示されていない。



オ 予測結果

本事業の緑化面積は、表 8.13-25 に示すとおり 12,350 m<sup>2</sup>であり、「杜の都の環境をつくる条例」に定める緑化基準面積 5,600 m<sup>2</sup>を満足すると予測される（表 8.13-15 参照）。

現況及び工事完了後（新病院）の緑化率、また比較として現病院の緑化率をそれぞれ表 8.13-16 に示す。公園用地である現況の緑化率 69.9%に対して新病院の緑化率は 21.8%になると予測される。また、現病院における緑化率 6.6%であり、新病院の緑化率はこれを上回る緑化率である。

表 8.13-14 緑化面積

区 分	本事業の計画緑化面積
合 計	12,350 m <sup>2</sup>

：緑化面積の算定に際しては、「杜の都の環境をつくる条例」（平成 18 年 6 月 23 日 仙台市条例第 47 号）に基づく緑化計画の手引きに従い、高木等植栽予定植物区分ごとに算出して、それを合算し緑化面積とした。

表 8.13-15 緑化基準と計画緑化面積

緑化基準に基づく算定式	緑化基準面積	本事業の計画緑化面積
「杜の都の環境をつくる条例」 【緑化基準面積】 = 敷地面積 × (1 - 建ぺい率の最高限度 (0.8)) × 0.5 = 敷地面積 × 0.1	5,600 m <sup>2</sup>	12,350 m <sup>2</sup>

算出に用いた計画諸元は、敷地面積が 56,067 m<sup>2</sup>、建ぺい率の最高限度が 80%である。

表 8.13-16 緑化率の差分的評価

	緑地面積 (m <sup>2</sup> )	敷地面積 (m <sup>2</sup> )	緑化率 (%)
現況	39,207	56,067	69.9
現病院	4,250	64,395	6.6
工事完了後(新病院)	12,350	56,067	21.8

8.13.3. 環境の保全及び創造のための措置

(1) 存在による影響（樹木伐採後の状況及び工作物等の出現） 【簡略化項目】

本事業の実施にあたっては、樹木伐採及び工作物等の出現に伴う樹木等(緑の量)への影響を可能な限り低減するため、表 8.13-17 に示す措置を講ずることとする。

表 8.13-17 環境の保全及び創造のための措置  
(存在による影響(樹木伐採後の状況及び工作物等の出現))

環境影響要因	環境の保全及び創造のための措置の内容
<p>存在による影響 (樹木伐採後の状況 及び工作物等の出現)</p>	<p>本評価書に掲げた緑化計画を確実に実施する。なお、緑化計画の策定に際し、主に配慮した点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街全体の景観形成や動植物の生息・生育に配慮した面的な広がりのある緑のネットワーク創出を目指すとともに、風況や沿道騒音の抑制も考慮した緑化計画とする。</li> <li>・可能な限り緑化率を高めた緑化計画とし、緑化基準面積(5,600㎡)を満足する緑化面積(12,350㎡)を確保する。</li> <li>・既存樹のうち、健全な生育を示している樹木を可能な限り保存、移植することとする。</li> <li>・中心エリアは駐車場の圧迫感を軽減させるように生け垣と葉張りの狭い高木で囲う。高木には、移植するケヤキなどを活用する。</li> <li>・中心エリア・エントランスに四季の花壇を設ける。</li> <li>・JR宮城野原駅から野球場に向かう西エリアの道路沿いには、サクラを配して景観効果を高める。</li> <li>・北エリアは市民に開放した散策路として位置づけ、保存するケヤキ、クヌギ等、移植するイロハモミジ、サクラ類、サルスベリ、ツバキ等を活用するとともに、草木・花、宿根草等により地被を覆うことで色彩が感じられる空間を創出する。また、イヌツゲ、ヒサカキ、ウメモドキ、ナナカマド、ガマズミ、ニシキギなどの野鳥の食餌植物を選定する。</li> <li>・東エリアは、比較的広い空間が取れるため、芝生の広がり樹群で構成する。芝には在来種のノシバを選定し、樹群には、保存するサクラ類、移植するサワラ、ヒマラヤスギを活用する。</li> <li>・南エリアは、ヘリコプターの発着に配慮して、低木による寄植えを主体とする。</li> <li>・東エリアには、宮城県の花(ミヤギノハギ)・仙台市の花(ハギ)であり、キタキチョウ・ルリシジミ・ツバメシジミ・ウラナミシジミ・コミシジミ・ウラギンシジミなど多くのチョウ類が好むミヤギノハギを植栽する。また、中央エリアにはアゲハチョウ類が好むツツジ類・ウツギ(吸蜜)、クスノキ・タブノキ(食樹)を植栽する。</li> <li>・モンキチョウやツバメシジミなどのチョウ類が好むシロツメクサを含む現存の土壌を活用して芝生に用いる。なお、シロツメクサは芝生と同様に管理し、完全に除去しないように留意する。</li> </ul>

#### 8.13.4. 評価

##### (1) 存在による影響 【簡略化項目】

###### ア 回避低減に係る評価

###### 評価方法

予測結果を踏まえ、建築物の建築に伴う樹木等(緑の量)への影響が、保全対策等により、実行可能な範囲で回避・低減が図られているか否かを判断する。

###### 評価結果

本事業の緑化面積は、「杜の都の環境をつくる条例」に定める緑化基準面積を満足すると予測された。

さらに、本事業では、計画地内の既存樹木を保存・移植することにより活用し、また、野鳥の食餌植物や蝶が好む樹種を植栽として選定する等、街全体の景観形成や動植物の生息・生育に配慮した面的な広がりのある緑のネットワークの創出を目指すとともに、風況や沿道騒音の抑制も考慮した緑化計画としていることから、緑の量への影響を可能な限り回避・低減した計画と評価する。

###### イ 基準や目標との整合に係る評価

###### 評価方法

予測結果が、表 8.13-18 に示す基準等と整合が図られているかを評価する。

表 8.13-18 整合を図る目標(存在による影響(樹木伐採後の状況及び工作物等の出現))

環境影響要因	整合を図る基準の内容
存在による影響 (樹木伐採後の状況 及び工作物等の出現)	・「杜の都 環境プラン(仙台市環境基本計画)」(平成 23 年 仙台市) ・「杜の都の環境をつくる条例」に定める緑化基準面積 ・「仙台市みどりの基本計画」(平成 24 年 仙台市)

###### 評価結果

「杜の都 環境プラン(仙台市環境基本計画)」,「杜の都の環境をつくる条例」及び「仙台市みどりの基本計画」に定める緑化に関する基準等は、「8.13.1 現況調査」に示したとおりである。

本事業では、「杜の都 環境プラン(仙台市環境基本計画)」の環境配慮の指針に沿って、街全体の景観形成や動植物に配慮した面的な広がりのある緑のネットワークの創出を目指すとともに、風況や沿道騒音の抑制も考慮した緑化計画としている。

また、本事業における計画緑化面積は 12,350 m<sup>2</sup>となり、「杜の都の環境をつくる条例」に定める緑化基準面積を上回る計画である。

さらに、「仙台市みどりの基本計画」に示される緑のネットワークの創出や公園や街路樹などのみどりの質の向上に沿った緑化計画が予定されている。

したがって、上記の基準や目標との整合性が図られていると評価する。

## 8.14. 動物（鳥類）





## 8.14. 動物（鳥類）

### 8.14.1. 現況調査

#### (1) 調査内容

動物の現況調査は、表 8.14-1 に示すとおり、「動物相及び注目すべき種」の把握を実施した。

表 8.14-1 調査内容（動物（鳥類））

調査内容	
動物（鳥類）	1.動物相及び注目すべき種

#### (2) 調査方法

##### ア 既存資料調査

調査方法は、表 8.14-2 に示すとおりとした。

表 8.14-2 調査方法（動物（鳥類））

調査項目	調査方法
1.動物相及び注目すべき種	調査方法は、「広瀬川流域の自然環境」(平成6年3月 仙台市), 「平成22年度 自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成23年3月 仙台市), 「仙台市の環境」等の既存資料の収集, 整理によるものとした。

##### イ 現地調査

調査方法は、表 8.14-3 に示すとおりとした。

表 8.14-3 調査方法（動物（鳥類））

調査事項	調査方法
1.動物相及び注目すべき種 (鳥類)	公園内を任意観察法（調査対象地内を任意に踏査し、鳴声、目視により動物の種類を確認・記録する）により生息する動物（鳥類）の確認を行った。注目すべき種が確認された場合には、位置、個体数を記録した。なお、注目すべき種は以下に該当する種とした。 ・「平成22年度 自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成23年3月 仙台市)における学術上重要種, 減少種, 環境指標種及びふれあい種 ・「環境省第4次レッドリスト」(平成24・25年 環境省)の掲載種 ・「宮城県の希少な野生動植物 - 宮城県レッドリスト2013版 -」(平成25年 宮城県)の掲載種

#### (3) 調査地域及び調査地点

##### ア 既存資料調査

調査地域は、地域概況の範囲とした。




##### イ 現地調査

調査地域は、対象事業により動物の生息環境への影響が想定される計画地より200mの範囲とした。

調査地点は、図 8.14-1 に示す計画地内とした。



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 区境界線
-  : 調査・予測地域(対象事業計画地より200mの範囲)

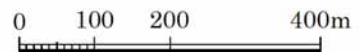
周辺の緑地等は、1.事業概要「1.3 事業実施の位置」、6.地域の概況「6.1.4 生物環境」、6.地域の概況「6.1.5 景観等及び自然との触れ合いの場の状況」及び8.13.植物「8.13.1. 現況調査 (5) 調査結果」を参照。  
 本図には、周辺の緑地等のうち、計画地に近接し、かつ規模の大きい榴岡公園及び国分寺跡を示す。

※ 調査地点は対象事業計画地である。

図 8.14-1 動物（鳥類）調査地点  
 (現地調査)



S=1:10,000



(4) 調査期間等

ア 既存資料調査

調査期間等は，限定しないものとした。

イ 現地調査

調査時期は，表 8.14-4 に示すとおり，平成 25 年夏季～平成 26 年春季の 4 季とし，観察時間帯は午前中を中心とした。

表 8.14-4 現地調査（動物（鳥類）：現地調査）

調査項目	調査期間等
1.動物相及び注目すべき種 (鳥類)	夏季：平成 25 年 8 月 26 日(月)
	秋季：平成 25 年 10 月 28 日(月)
	冬季：平成 25 年 12 月 2 日(月)
	春季：平成 26 年 4 月 24 日(木)

(5) 調査結果

ア 既存資料調査

動物相及び注目すべき種

計画地周辺における動物相及び注目すべき種の状況は，「6 地域の概況 6.1 自然的状況 6.1.4 生物環境」に示すとおりである。これによると，計画地から西に約 500m 離れた榴岡公園（図 8.14-1 参照）で表 8.14-5 に示す注目すべき種の分布情報が得られている。

表 8.14-5 既存資料による周辺地域の注目すべき動物種【鳥類】

目名	科名	種名	文献 ( 1 )		判断理由(文献 )							県 RL ( 2・ 3)	環境省 RL ( 2・ 3)	分布地 (文献 )
			学術上 重要種	環境 指標種	減少種					ふれ あい 種				
					山地	丘陵地	市街地	田園	海浜					
ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			*	C	B					NT	NT	榴ヶ岡公園

1：文献は以下のとおりである。

「平成 22 年度 自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)

「広瀬川流域の自然環境」(平成 6 年 3 月 仙台市)

ただし，文献中において広瀬川中流あるいは下流で確認された種である。

2：RL 種は以下のとおりである。

環境省 RL：「環境省第 4 次レッドリスト」(平成 24・25 年 環境省報道発表資料)

宮城県 RL：「宮城県の希少な野生動植物 - 宮城県レッドリスト 2013 版 - 」(平成 25 年 宮城県)

3：文献 では RL 種を判断基準としていたが，平成 22 年以降データが更新されたため，「自然環境保全上重要な種」として抽出された種が RL 種に該当するかどうかを確認した。

イ 現地調査

動物相及び注目すべき種（鳥類）

a) 確認種

現地調査の結果，計画地において，表 8.14-6 に示す 5 目 17 科 26 種の鳥類が確認された。

表 8.14-6 鳥類確認種一覧

目名	科名	種名	渡り区分	調査時期			
				夏季	秋季	冬季	春季
コウノトリ	サギ	ダイサギ	夏/冬				
タカ	タカ	トビ	留鳥				
		オオタカ	留鳥				
ハト	ハト	キジバト	留鳥				
		ドバト	留鳥				
キツツキ	キツツキ	コゲラ	留鳥				
スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	留鳥				
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥				
	モズ	モズ	留鳥				
	ツグミ	シロハラ	冬鳥				
		ツグミ	冬鳥				
	ウグイス	センダイムシクイ	夏鳥				
		ウグイス	留鳥				
	ヒタキ	キビタキ	夏鳥				
	シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥				
	メジロ	メジロ	漂鳥				
	ホオジロ	カシラダカ	冬鳥				
		ミヤマホオジロ	冬鳥				
		アオジ	漂鳥				
	アトリ	カワラヒワ	留鳥				
		シメ	冬鳥				
	ハタオリドリ	スズメ	留鳥				
ムクドリ	ムクドリ	留鳥					
カラス	カケス	留鳥					
	ハシボソガラス	留鳥					
	ハシブトガラス	留鳥					
5 目	17 科	26 種	種数合計	8 種	19 種	12 種	20 種

b) 注目すべき種

現地調査で確認された鳥類のうち、以下に示す基準に該当する注目すべき種は、表 8.14-7 に示すとおり、2目6科7種が確認された。

現地調査で確認された鳥類の注目すべき種は、仙台市では林や農耕地、市街地の緑地等に広く分布する種である。このうちオオタカについては、上空を通過する個体が確認されたものである。

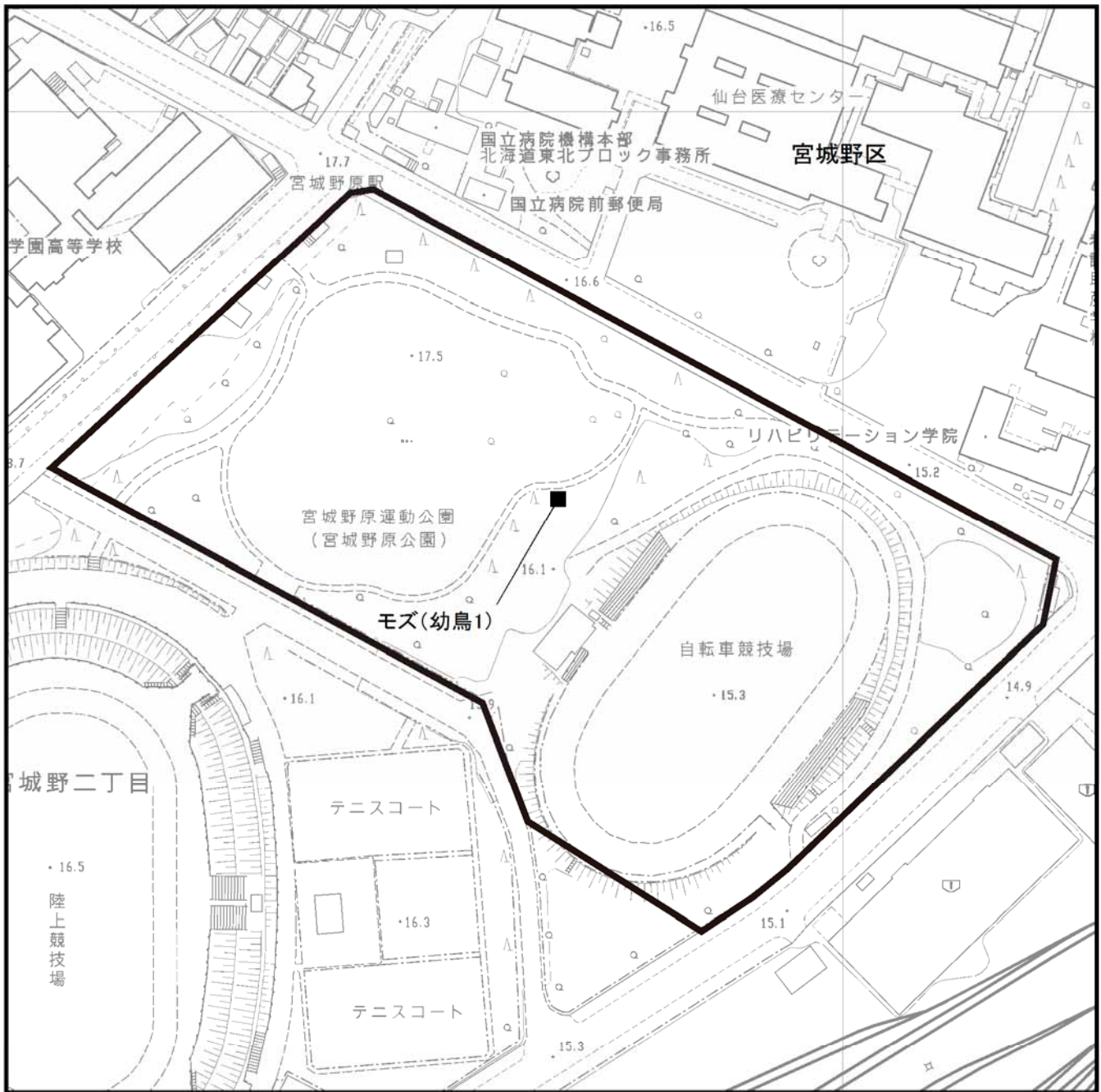
表 8.14-7 注目すべき種（鳥類）

目名	科名	種名	渡り区分	個体数				環境省 RL	県 RL	仙台市 自然環境保全上重要な種							
				夏 (8月)	秋 (10月)	冬 (12月)	春 (4月)			学術上重要な種	減少種					環境指標種	ふれあい保全種
											山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜		
タカ	タカ	オオタカ	留鳥		1			NT	NT	1,4	C	C	B	B	C		○
スズメ	モズ	モズ	留鳥	1		1	2				*	C	B	C	C		○
	ツグミ	シロハラ	冬鳥				1				*	C	B				
	ウグイス	センダイムシクイ	夏鳥				3					*	C	B			
		ウグイス	留鳥		2	1						*	*	C	C	C	
	ヒタキ	キビタキ	夏鳥				1				*	C	B				
	ホオジロ	アオジ	漂鳥		8	2	28				C	C	C	C	C		
2目	6科	7種	種数合計	1種	3種	6種	5種	1種	1種	1種	7種	7種	7種	4種	4種	5種	3種
				15種													

表 8.14-8 注目すべき種の選定基準

判断基準		区分	説明
環境省 RL (「環境省第4次レッドリスト」(平成24・25年 環境省報道発表資料)掲載種)		EX	絶滅
		EW	野生絶滅
		CR	絶滅危惧 A類
		EN	絶滅危惧 B類
		VU	絶滅危惧 類
		NT	準絶滅危惧
		DD	情報不足
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群
県 RL (「宮城県の希少な野生動植物 - 宮城県レッドリスト 2013 版 - 」(平成25年 宮城県)掲載種)		EX	絶滅
		EW	野生絶滅
		CR+EN	絶滅危惧 類
		VU	絶滅危惧 類
		NT	準絶滅危惧
		DD	情報不足
		要	要注目種
仙台市における保全上重要な種の区分	学術上重要な種	1	仙台市において、もともと稀産あるいは希少である種。あるいは分布が限定されている種。
		2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限となっている種。あるいは隔離分布となっている種。
		3	仙台市が模式産地(タイプロカリティー)となっている種
		4	その他、学術上重要な種
	減少種	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。
		EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種。
		A	現在ほとんど見ることができない。
		B	減少が著しい。
		C	減少している。
		*	普通に見られる。
	/	生息・生育しない可能性が非常に大きい。	
	環境指標種		本市の各環境分類において良好な環境を指標する種。(ピオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標)
	ふれあい保全種		市民に親しまれている(よく知られている)種のうち、保全上重要な種。(身近にある種の保全に対して啓蒙をはかるための種。)

出典:「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成23年3月 仙台市)



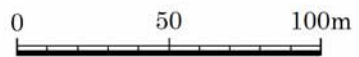
凡 例

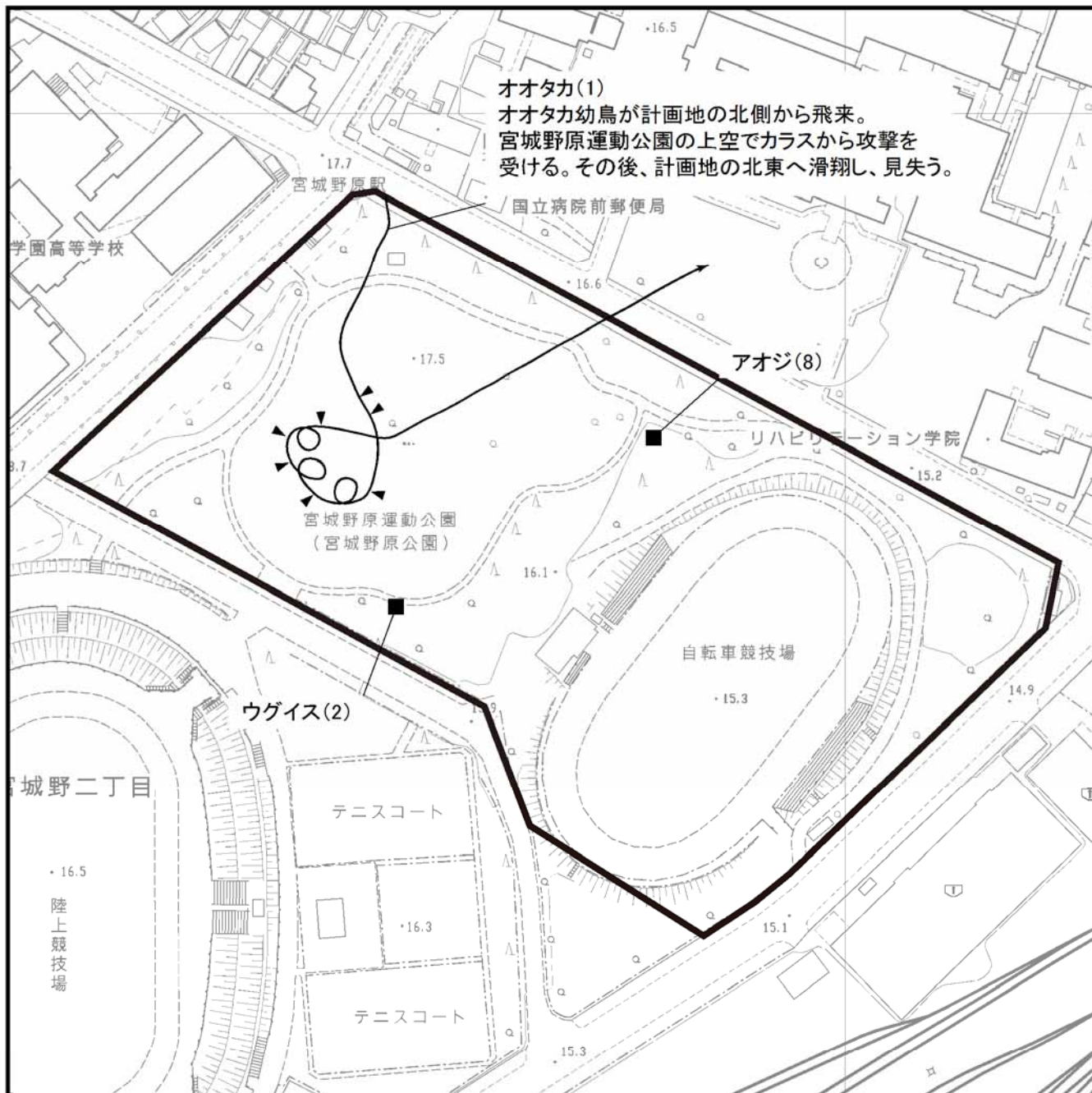
- : 対象事業計画地
- : 鳥類注目すべき種確認位置
- ( ) 内の数値は確認個体数を示す。

図 8.14-2 動物(鳥類)注目すべき種確認位置図(夏季)



S=1:2,500





凡例





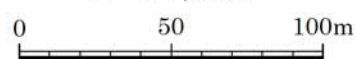
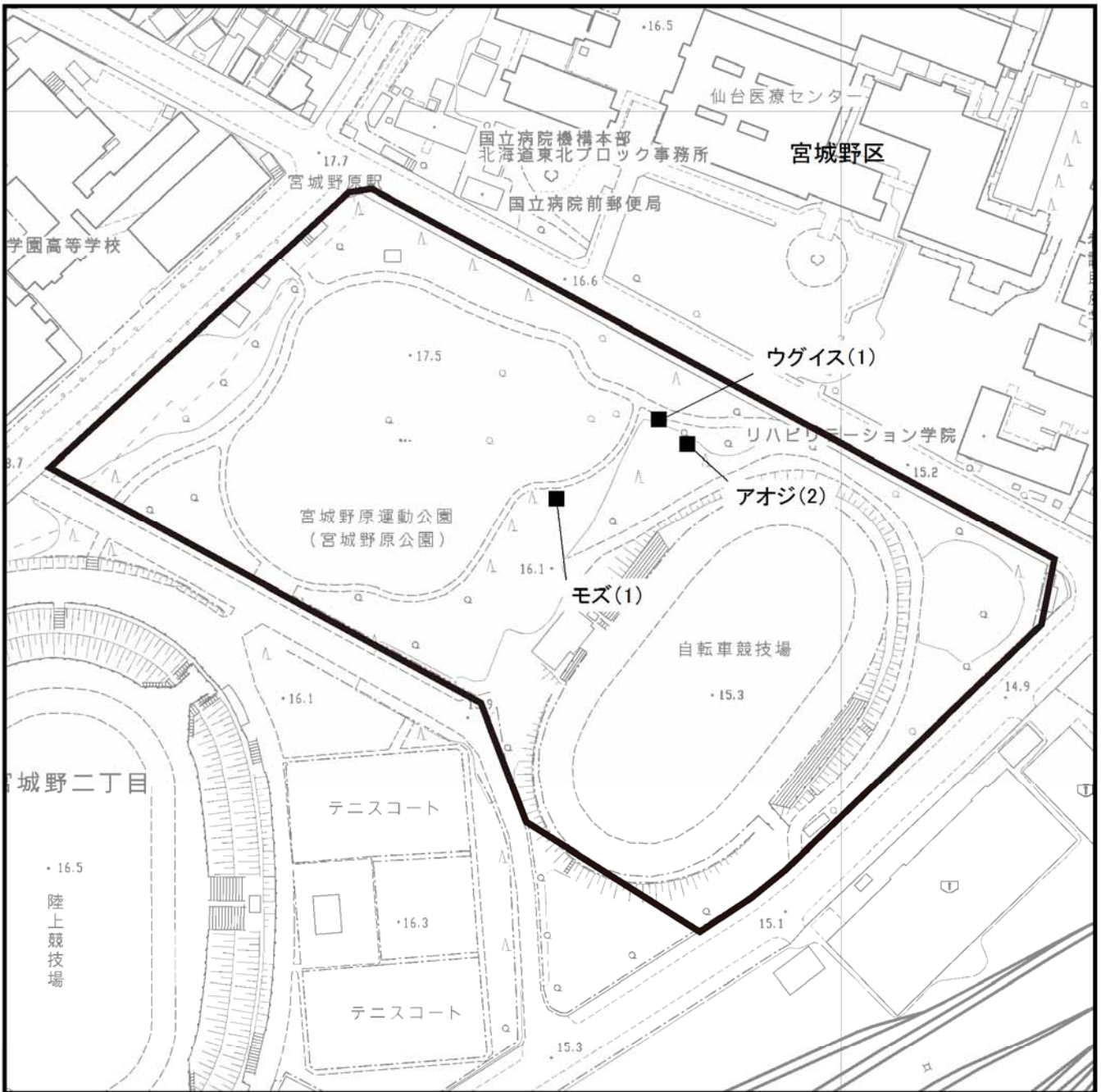
-  : 対象事業計画地
  -  : 鳥類注目すべき種確認位置
  -  : 飛翔軌跡
  -  : 被攻撃
- ( ) 内の数値は確認個体数を示す。

図 8.14-3 動物(鳥類)注目すべき種確認位置図(秋季)



S=1:2,500





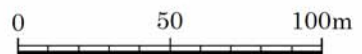
凡 例

- : 対象事業計画地
- : 鳥類注目すべき種確認位置  
 ( ) 内の数値は確認個体数を示す。

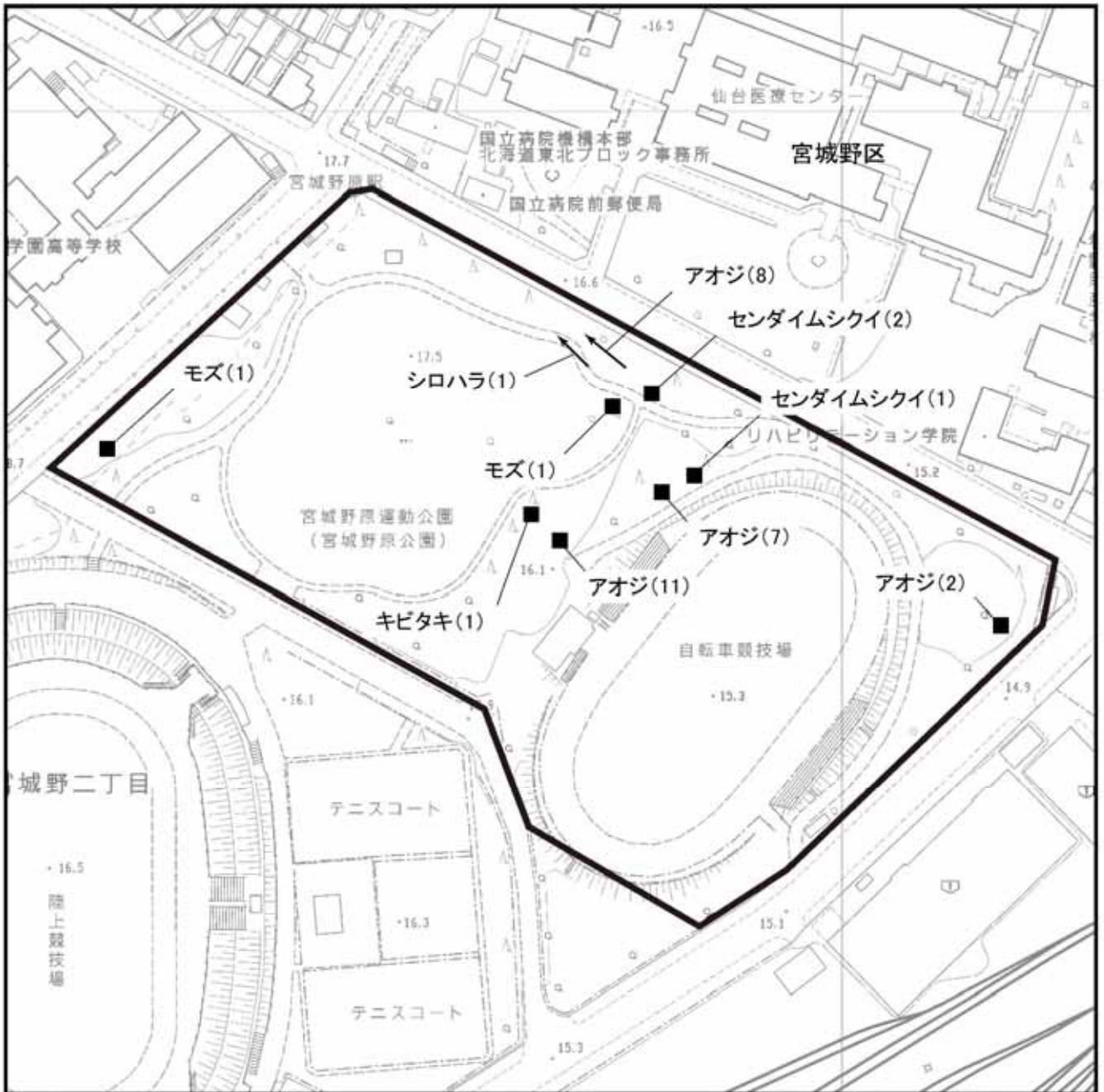
図 8.14-4 動物(鳥類)注目すべき種確認位置図(冬季)



S=1:2,500







凡例

- : 対象事業計画地
- : 鳥類重要種確認位置
- ( ) 内の数値は確認個体数を示す。

図 8.14-5 動物重要種確認位置図(春季)



S=1:2,500

0 50 100m

#### 8.14.2. 予測

##### (1) 工事による影響（建築物の建築） 【簡略化項目】

###### ア 予測内容

予測内容は、建築物等の建築工事の実施に係る動物相(鳥類)と注目すべき種の有無、変化の程度とした。

###### イ 予測地域等

予測地域は、対象事業により動物の生息環境への影響が想定される計画地より 200m の範囲とした。予測地点は、計画地とした。

###### ウ 予測対象時期

予測対象時期は、工事期間中とした。

###### エ 予測方法

予測方法は、既知の知見の引用または解析により、建築物等の建築工事の実施による注目すべき鳥類の種類の変化の程度を予測するものとした。

###### オ 予測結果

オオタカは平地から山地の農耕地や林に生息し、山地の林で繁殖する種である。本種は、計画地へのとまり・採餌等の行動は確認されておらず、一時的な上空通過個体として確認されており、市街地の公園である計画地はオオタカの主要な生息地ではないと考えられることから、建築物等の建築工事の実施による本種への影響は小さいと予測される。

モズは、低地の林、低木のある川原や農耕地、公園等に広く生息し、低木のある開けた環境で繁殖する種である。ウグイスは、低地から山地のササのある場所で繁殖する種であるが、市街地の公園や庭でも確認される。アオジは、明るい林、林縁等で繁殖する種であるが、市街地の公園や庭でも確認される。計画地はこれら 3 種の生息環境として利用されているものと考えられる。

シロハラは冬鳥、センダイムシクイ、キビタキ及びヨタカ（既存資料により周辺地域での確認情報あり）は夏鳥であり、これらの渡り鳥は本計画地で生息しているのか、渡りの途中で立ち寄ったものかは不明である。

建築物等の建設工事の実施により、モズ、ウグイス、アオジ及び渡りの鳥類は工事期間中に計画地を利用できなくなる。よって、予測地域における工事中の種数及び個体数は減少するものと予測される。

しかし、工事の影響は一時的であり、供用後は街全体の景観形成や動植物の生息・生育に配慮した面的な広がりのある緑のネットワーク創出を目指して、街路樹との一体的な緑化整備を目的に計画地の外周部に植栽を行う計画としていることから、注目すべき種の生息環境及び近隣公園を利用している可能性のあるヨタカを含めた渡り鳥の利用環境への影響は低減されると予測される。

また、建築物への鳥類の衝突については、工事の開始に伴い鳥類は計画地外へ移動すると考えられ、渡りの小鳥類についても建築物付近の通過を避けるものと考えられることから、建築中の建築物への衝突の恐れは小さいものと予測される。

したがって、建築物等の建築工事の実施によるこれらの鳥類への影響は小さいと予測される。

## (2) 存在による影響（工作物等の出現） 【簡略化項目】

### ア 予測内容

予測内容は、計画建築物の存在に係る動物相(鳥類)と注目すべき種の有無、変化の程度とした。

### イ 予測地域等

予測地域は、対象事業により動物の生息環境への影響が想定される計画地より 200m の範囲とした。予測地点は、計画地とした。

### ウ 予測対象時期

予測対象時期は、工事が完了した時点（平成 28 年）とした。

### エ 予測方法

動物相(鳥類)の変化の程度

予測方法は、既知の知見の引用または解析により、計画建築物の存在による注目すべき鳥類の種類の変化の程度を予測するものとした。

### オ 予測結果

オオタカは平地から山地の農耕地や林に生息し、山地の林で繁殖する種である。本種は、計画地へのとまり・採餌等の行動は確認されておらず、一時的な上空通過個体として確認されており、通過個体として確認されており、市街地の公園である計画地はオオタカの主要な生息地ではないと考えられることから、計画建築物の存在による本種への影響は小さいと予測される。

モズは、低地の林、低木のある川原や農耕地、公園等に広く生息し、低木のある開けた環境で繁殖する種である。ウグイスは、低地から山地のササのある場所で繁殖する種であるが、市街地の公園や庭でも確認される。アオジは、明るい林、林縁等で繁殖する種であるが、市街地の公園や庭でも確認される。計画地はこれら 3 種の生息環境として利用されているものと考えられる。

シロハラは冬鳥、センダイムシクイ、キビタキ及びヨタカ（既存資料により周辺地域での確認情報あり）は夏鳥であり、これらの渡り鳥は本計画地で生息しているのか、渡りの途中で立ち寄ったものかは不明である。

計画建築物の存在により、モズ、ウグイス、アオジの生息環境及び渡りの鳥類の利用環境は減少すると予測される。よって、予測地域における供用後の種数及び個体数は減少するものと予測される。

しかし、本事業では街全体の景観形成や動植物の生息・生育に配慮した面的な広がりのある緑のネットワーク創出を目指して、街路樹との一体的な緑化整備を目的に計画地の外周部に植栽を行う計画としていることから、注目すべき種の生息環境及び近隣公園を利用している可能性のあるヨタカを含めた渡り鳥の利用環境への影響は低減されると予測される。

また、建築物への鳥類の衝突については、計画地に隣接する現病院において鳥類の衝突の事例が確認されていないが、計画建築物は現病院よりも高くなること、開口部が大きいこと、低放射複層ガラス(Low-e ペアガラス)を使用すること等を踏まえ、鳥類の衝突を回避するためのさらなる配慮として、建物高さが高く、開口部が大きい病棟に採用する低放射複層ガラス(Low-e ペアガラス)については、なるべく反射率の低いものとする。

したがって、計画建築物の存在によるこれらの鳥類への影響は小さいと予測される。

### 8.14.3. 環境の保全及び創造のための措置

#### (1) 工事による影響（建築物の建築） 【簡略化項目】

予測地域において、建築物等の建築工事の実施による動物(鳥類)への影響は小さいと予測された。

さらに、隣接する宮城野原公園を含む周辺地域の鳥類の生息環境への配慮として、表 8.14-9 に示す措置を講ずることとした。

表 8.14-9 環境の保全及び創造のための措置（工事による影響(建築物の建築)）

環境影響要因	環境の保全及び創造のための措置の内容
工事による影響 (建築物の建築)	・ 工事中は低騒音工法の選択, 低騒音型の重機を使用する等, 周辺環境への騒音等の低減に努め, 鳥類の生息環境に配慮する。

#### (2) 存在による影響（工作物等の出現） 【簡略化項目】

予測地域において、計画建築物の存在による動物(鳥類)への影響は小さいと予測された。

さらに、鳥類の生息及び衝突回避への配慮として、表 8.14-10 に示す措置を講ずることとした。

表 8.14-10 環境の保全及び創造のための措置（存在による影響(工作物等の出現)）

環境影響要因	環境の保全及び創造のための措置の内容
存在による影響 (計画建築物の存在)	・ 既存公園内の樹木を極力保存しつつ, 植栽により鳥類の生息場所の確保に努める。 ・ 鳥類の衝突を回避するため, 建物高さが高く, 開口部が大きい病棟に採用する低放射複層ガラス(Low-e ペアガラス)については, なるべく反射率の低いものとする。

#### 8.14.4. 評価

##### (1) 工事による影響（建築物の建築） 【簡略化項目】

###### ア 回避・低減に係る評価

###### 評価方法

予測結果を踏まえ、必要に応じて、保全対策等により、工事による動物(鳥類)への影響が、実行可能な範囲内で最大限の回避・低減が図られているか否かを判断する。

###### 評価結果

予測の結果、建築物等の建築工事の実施に係る鳥類への影響は小さいと予測された。

また、工事中は隣接する宮城野原公園を含む周辺地域の鳥類の生息環境への配慮を行うことから、建築物等の建築工事の実施に係る鳥類への影響は、実行可能な範囲内で、最大限の回避・低減が図られていると評価する。

##### (2) 存在による影響（工作物等の出現） 【簡略化項目】

###### ア 回避・低減に係る評価

###### 評価方法

予測結果を踏まえ、必要に応じて、保全対策等により、存在による動物(鳥類)への影響が、実行可能な範囲内で最大限の回避・低減が図られているか否かを判断する。

###### 評価結果

予測の結果、計画建築物の存在に係る鳥類への影響は小さいと予測された。

また、鳥類の生息及び計画建築物への衝突事故回避の配慮を行うことから、計画建築物の存在による鳥類への影響は、実行可能な範囲内で、最大限の回避・低減が図られていると評価する。

##### イ 基準や目標との整合

###### 評価方法

表 8.14-11 に示す基準等と整合が図られているかを評価する。

表 8.14-11 整合を図る基準(存在による影響(工作物等の出現))

環境影響要因	整合を図る基準の内容
存在による影響 (工作物等の出現)	・「仙台市環境基本計画 杜の都環境プラン」(平成 23 年 仙台市)における「市街地地域における環境配慮の指針」

###### 評価結果

「仙台市環境基本計画 杜の都環境プラン」の市街地地域における環境配慮の指針については、「6.地域の概況 6.2 社会的状況等 6.2.5 環境の保全等を目的とする法令等」に示すとおりである。このうち、とくに動物に係る項目としては「生態系の連続性を考慮し、緑化の推進や多様な生息・生育の場となるピオトープ(生物の生息・生育空間)づくりに務める」と示されている。

本事業においては、街全体の景観形成や動植物の生息・生育に配慮した面的な広がりのある緑のネットワークの創出を目指すとともに、風況や沿道騒音の抑制も考慮した緑化計画としていることから、基準との整合は図られていると評価する。



## 8.15. 景觀





## 8.15. 景観

### 8.15.1. 現況調査

#### (1) 調査内容

景観の現況調査は、表 8.15-1 に示すとおり、文献調査や現地踏査により抽出された地点に対し、「景観資源の状況」及び「主要な眺望地点の状況」の把握を実施した。

表 8.15-1 調査内容（景観）

調査内容	
景観	<b>1.景観資源の状況</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然的景観資源及び文化的景観資源の分布</li> <li>・地形、植生、その他景観資源を構成する要素の状況等景観資源の特性</li> </ul> <b>2.主要な眺望地点の状況</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・眺望地点の位置、利用状況、眺望特性</li> <li>・主要な眺望地点からの眺望の状況</li> </ul>

#### (2) 調査方法

調査方法は、表 8.15-2 に示すとおりとした。

表 8.15-2 調査方法（景観）

調査内容	調査手法
<b>1.景観資源の状況</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然的景観資源及び文化的景観資源の分布</li> </ul>	調査方法は、既存文献、現地調査により自然的景観資源及び文化的景観資源を抽出した。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形、植生、その他景観資源を構成する要素の状況等景観資源の特性</li> </ul>	調査方法は、抽出した景観資源について、景観資源の抽出のみならず、その範囲、規模、特徴、周囲からの見え方等について整理を行った。
<b>2.主要な眺望地点の状況</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・眺望地点の位置、利用状況、眺望特性</li> </ul>	調査方法は、既存文献等により対象地域における眺望地点を抽出し、現地調査等により眺望地点の特性を把握する。 また、既存文献及び現地調査等により利用状況を把握した。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な眺望地点からの眺望の状況</li> </ul>	調査方法は、既存文献等により対象地域における主要な眺望地点を抽出し、写真撮影 <sup>1</sup> 等により眺望の状況を把握した。

1：撮影高さ 1.5m、焦点距離 30mm とした。

(3) 調査地域及び調査地点

ア 景観資源の状況

調査地域は、計画地及びその周辺において、景観に対する影響が想定される地域として、計画建築物が近景域及び中景域となる範囲（計画建築物を中心として1.5km程度）とした。

イ 主要な眺望地点の状況

6章の地域概況調査で得られた主要な眺望地点を参考にしつつ、計画建築物が視認できる可能性のある眺望地点を選定した。

調査地域は、計画建築物の視認できる範囲と計画地を中心として1.5km程度の範囲とした。

調査地点は、景観資源の分布地及び計画建築物から近景域（800m以内）、中景域（800m～1,500m）、遠景域（1,500m超）となる範囲を勘案し、本事業における計画建築物が視認できる可能性のある眺望地点とし、表 8.15-3 に示す12地点とした。

表 8.15-3 調査地点（景観）

調査事項	地点番号	調査地点	計画建築物からの距離	
景観資源分布等に係る眺望点	1	宮城野原公園	約 350m	(近景域)
	2	榴岡公園（旧歩兵第4連隊兵舎）	約 500m	(近景域)
	3	銀杏町	約 600m	(近景域)
	4	宮城野区役所	約 800m	(近景域)
	5	国分寺跡	約 1,150m	(中景域)
周辺道路に係る眺望点	6	宮城野通	約 1,250m	(中景域)
	7	卸町	約 1,500m	(中景域)
遠景域において市民の利用頻度の高い展望台や地域を代表する眺望点	8	仙台駅東口	約 2,000m	(遠景域)
	9	宮城県庁	約 3,300m	(遠景域)
	10	SS30(住友生命仙台中央ビル)	約 2,400m	(遠景域)
	11	愛宕神社	約 2,950m	(遠景域)
	12	長喜城	約 3,100m	(遠景域)

近景域：計画建築物を中心として半径800m程度までの範囲

中景域：計画建築物を中心として半径800m～1,500m程度までの範囲

遠景域：計画建築物を中心として半径1,500mを超える範囲

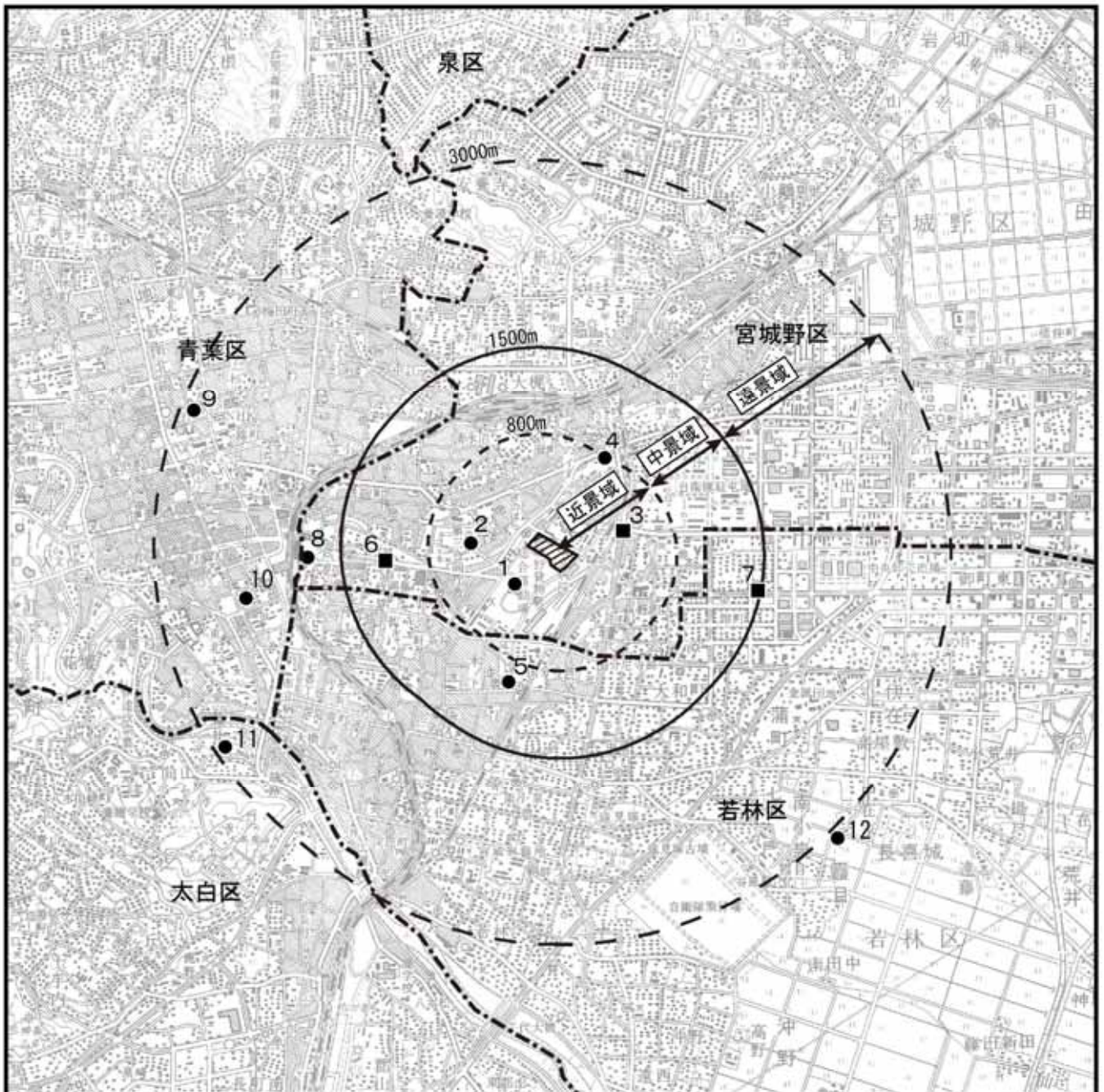
(4) 調査期間等

調査期間等は、表 8.15-4 に示すとおり、平成25年秋季及び平成26年冬季とした。


表 8.15-4 調査期間等（景観）


調査事項	季節	調査時期
1.景観資源の状況	展葉期	平成25年9月18日(水)～20日(金)
2.主要な眺望点の状況	落葉期	平成26年1月7日(火)、14日(火)、15日(水)


注) 展葉期：樹木の葉が最も多い時期、落葉期：樹木の葉が最も少ない時期とした。



凡例

 : 対象事業計画地

 : 区境界線

 : 調査・予測地域  
(対象事業計画地より1500m:中景域)

● : 調査地点(景観資源等分布等)

■ : 調査地点(周辺道路等)

調査地点

1 : 宮城野原公園

2 : 榴岡公園(旧歩兵第4連隊兵舎)

3 : 銀杏町

4 : 宮城野区役所

5 : 国分寺跡

6 : 宮城野通

7 : 卸町

8 : 仙台駅東口

9 : 宮城県庁

10 : SS30

11 : 愛宕神社

12 : 長喜城

図 8.15-1 景観調査地域(現地調査)



S=1:50,000

0 500 1000 2000m

(5) 調査結果

ア 景観資源の状況

計画地周辺の景観資源の分布は、表 8.15-5 及び図 8.15-2 に示すとおりである。

計画地周辺の主要な眺望地点から計画地方向に視認可能な自然的景観資源は存在しない。

また、計画地周辺の主要な眺望地点から計画地方向に視認可能な文化的景観資源は、国分寺跡、愛宕神社、旧歩兵第4連隊兵舎が挙げられる。

表 8.15-5 調査範囲の景観資源

【自然的景観資源】

No.	名称	文献( )		
1	仙台市霊屋広瀬川面(断崖・絶壁)			
2	仙台市広瀬町(断崖・絶壁)			
3	竜ノ口溪谷			
4	定禅寺通り(けやき並木のアーチ)			
5	イグネのある長喜城集落			
6	広瀬川			
-	-	3	2	1

【文化的景観資源】

No.	名称	文献( )		
1	堤通(七夕飾り)			
2	西公園			
3	青葉神社			
4	愛宕神社			
5	孝勝寺			
6	護国神社			
7	榴岡天満宮			
8	東照宮			
9	国分寺跡			
10	陸奥国分寺薬師堂			
11	輪王寺			
12	輪王寺庭園			
13	仙台城跡			
14	遠見塚古墳			
15	原田甲斐屋敷門			
16	陸奥国分寺跡			
17	旧歩兵第4連隊兵舎			
18	仙台朝市			
19	初売り			
-	-	2		17

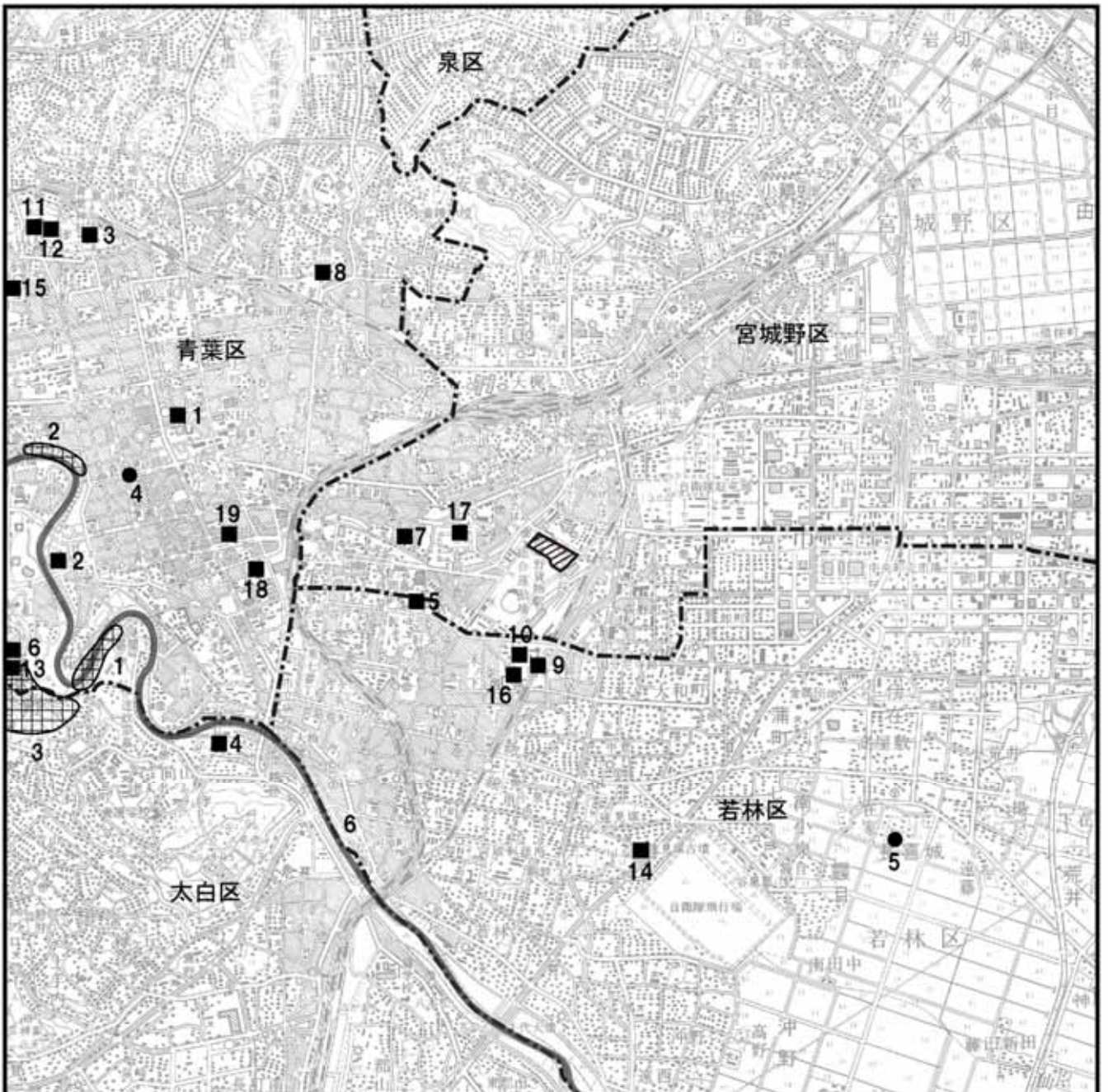
: 文献は以下のとおりである。

「平成15年度 自然環境に関する基礎調査業務報告書」(平成16年2月 仙台市)





「みやぎ・身近な景観百選」(平成22年3月 宮城県)

<http://www.pref.miyagi.jp/tosikei/portal/100sen/hyakusen.htm>

「みやぎ伊達な観光マップ」<http://www.datenamap.com/>



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 区境界線
-  : 自然的景観資源(1~6)
-  : 文化的景観資源(1~19)

出典：「平成15年度 自然環境に関する基礎調査業務報告書」(平成16年2月 仙台市)  
 「みやぎ・身近な景観百選」(平成22年3月 宮城県)  
<http://www.pref.miyagi.jp/tosikei/portal/100sen/hyakusen.htm>  
 「みやぎ伊達な観光マップ」 <http://www.datenamap.com/>

図 8.15-2 計画地周辺の景観資源



S=1:50,000

0 500 1000 2000m

計画地周辺の主要な眺望地点から計画地方向に視認可能な文化的景観資源の状況を表 8.15-6 に示す。

表 8.15-6 計画地から視認可能な景観資源の状況

名称	景観資源の状況		
	特徴	範囲・規模	周囲からの見え方
愛宕神社	伊達家の仙台入城に合わせて社殿が造営、遷座され、以後藩内の安全祈願の場所となった。	計画地より約 2,950m 南西に位置する。	標高 75m の愛宕山の頂上に鎮座する。
国分寺跡	南大門・講堂・金堂・七重塔などの跡が残り、国の史跡に指定されている。	計画地より約 1,150m 南南西に位置する。	史跡内は樹木が生い茂り、隣接した公園の色樹林が見渡せる。
旧歩兵第 4 連隊兵舎	宮城県最古の木造洋風建築で、現在では仙台市歴史民俗資料館となっている。	木造二階建てで、計画地より約 500m 西に位置する。	周囲に、榴岡公園内の芝生や植樹等が見渡せる。

#### イ 主要な眺望地点の状況

主要な眺望地点は、表 8.15-7 及び図 8.15-1 に示すとおりとした。

近景域は、宮城野原公園、榴岡公園、銀杏町及び宮城野区役所の 4 地点からの眺望の状況を把握した。

中景域は、国分寺跡、宮城野通及び卸町の 3 地点からの眺望の状況を把握した。

遠景域は、仙台駅東口、宮城県庁展望台、SS30(住友生命仙台中央ビル)、愛宕神社及び長喜城の 5 地点の眺望の状況を把握した。

これらの眺望地点の状況及び眺望景観の状況を表 8.15-8-1～表 8.15-8-12 に示す。

表 8.15-7 主要な眺望地点の区分

地点番号	調査地点	区分
1	宮城野原公園	近景域
2	榴岡公園	近景域
3	銀杏町	近景域
4	宮城野区役所	近景域
5	国分寺跡	中景域
6	宮城野通	中景域
7	卸町	中景域
8	仙台駅東口	遠景域
9	宮城県庁	遠景域
10	SS30(住友生命仙台中央ビル)	遠景域
11	愛宕神社	遠景域
12	長喜城	近景域

表 8.15-8-1 眺望地点の状況及び眺望景観の状況（地点1：宮城野原公園）



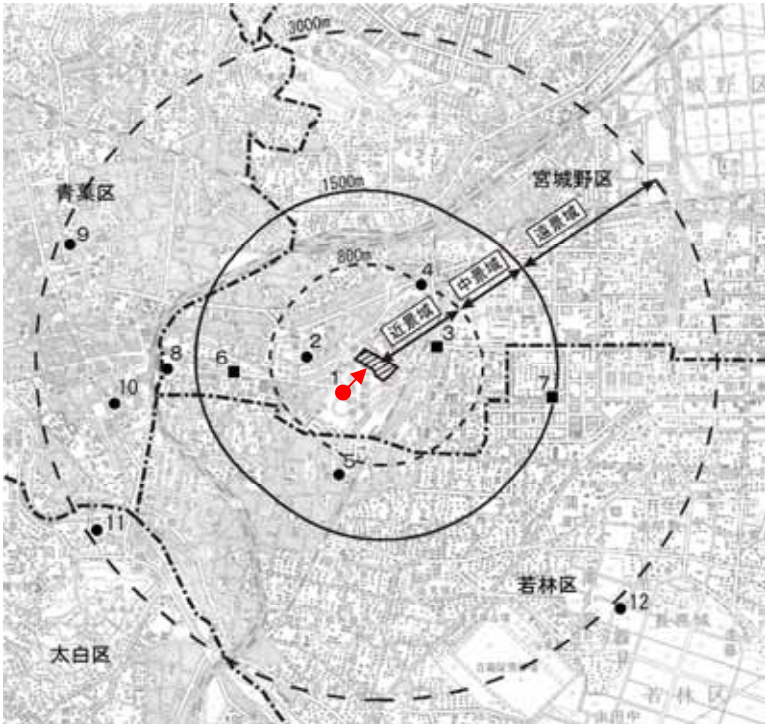
調査地点	宮城野原公園	
調査時期	展葉期 （平成 25 年 9 月 19 日）	落葉期 （平成 26 年 1 月 14 日）
眺望景観の状況		
撮影地点	 <p style="text-align: right;">凡例 ◀●▶ : 撮影地点・方向</p>	
計画建築物からの距離	眺望地点は計画建築物の南西、約 350m 地点に位置する。	
眺望地点の概要・状況	<p>宮城野原公園は、仙台市中心地の東側にある広大な都市公園である。プロ野球団東北楽天ゴールデンイーグルスの本拠地になっている宮城球場をはじめ、仙台市陸上競技場、宮城自転車競技場及び宮城テニスコートなど、運動公園として年間を通して様々な大会等が開催されている。</p> <p>眺望地点は、宮城野原公園正面入口付近である。陸上競技場正面が木立の間に見え、その他の建築物は視認できない。計画地方向の眺望は、陸上競技場、植樹林が見渡せる。</p>	

表 8.15-8-2 眺望地点の状況及び眺望景観の状況（地点2：榴岡公園）



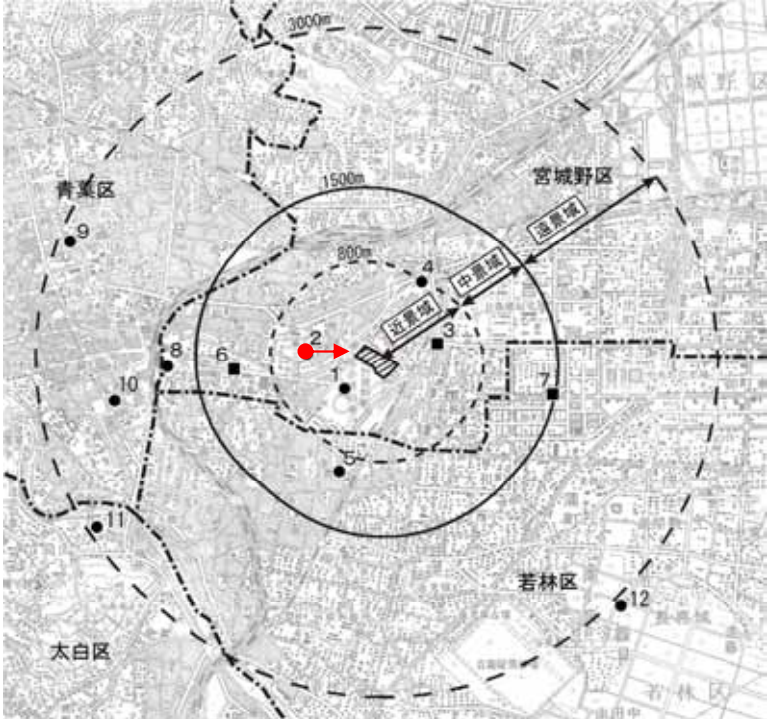
調査地点	榴岡公園	
調査時期	展葉期 (平成25年9月18日)	落葉期 (平成26年1月7日)
眺望景観の状況		
撮影地点	 <p style="text-align: right;">凡例 ◀●▶ : 撮影地点・方向</p>	
計画建築物からの距離	眺望地点は計画建築物の西、約500m地点に位置する。	
眺望地点の概要・状況	<p>榴岡公園は、仙台市中心地の東側にある都市公園である。桜の名所として広く知られている。榴岡公園沿いにあるクロマツの並木も美しく、四季を通して市民に広く親しまれ、市内有数の憩いの場になっている。</p> <p>計画地方向の眺望は、公園内の芝生や植樹等が見渡せ、その奥に市街地の中高層建築物を望むことができる。</p>	



表 8.15-8-3 眺望地点の状況及び眺望景観の状況（地点3：銀杏町）



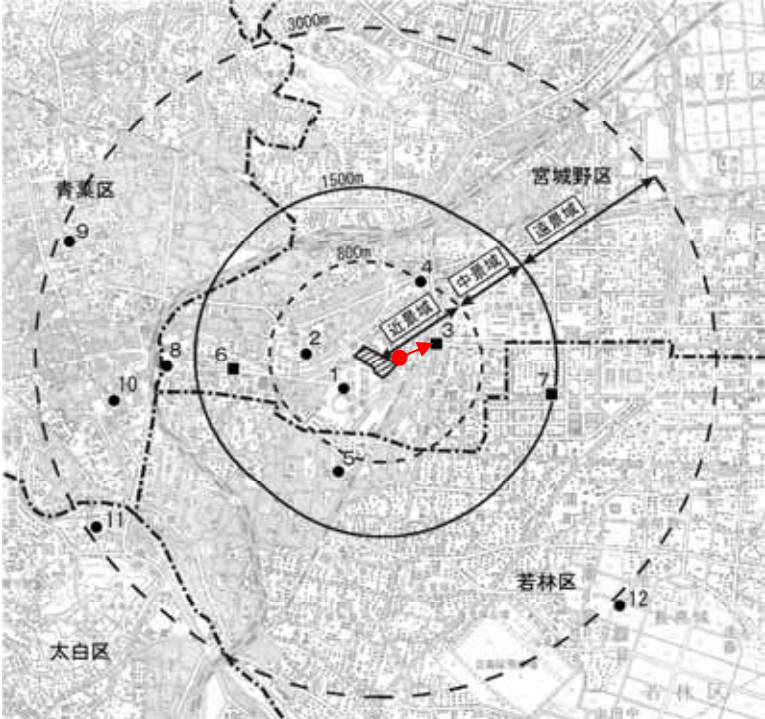
調査地点	銀杏町	
調査時期	<p>展葉期 (平成 25 年 9 月 20 日)</p>	<p>落葉期 (平成 26 年 1 月 15 日)</p>
眺望景観の状況		
撮影地点	 <p style="text-align: right;">凡例 ◀●▶ : 撮影地点・方向</p>	
計画建築物からの距離	<p>眺望地点は計画建築物の東北東、約 600m 地点に位置する。</p>	
眺望地点の概要・状況	<p>銀杏町地点は、仙台市中心部から東側に位置し、宮城野萩大通りと市道銀杏町 5 号線の交差点である。交差点には歩道橋が設置されており、周辺は小売店と大型商業施設及び住宅が立ち並んでいる。近くには JR 仙石線が宮城の萩大通りと並行するように走っている。</p> <p>計画地方向の眺望は、市街地の中高層建築物が見渡せ、建築物の合間から現医療センターの一部を望むことができる。</p>	

表 8.15-8-4 眺望地点の状況及び眺望景観の状況（地点 4：宮城野区役所）



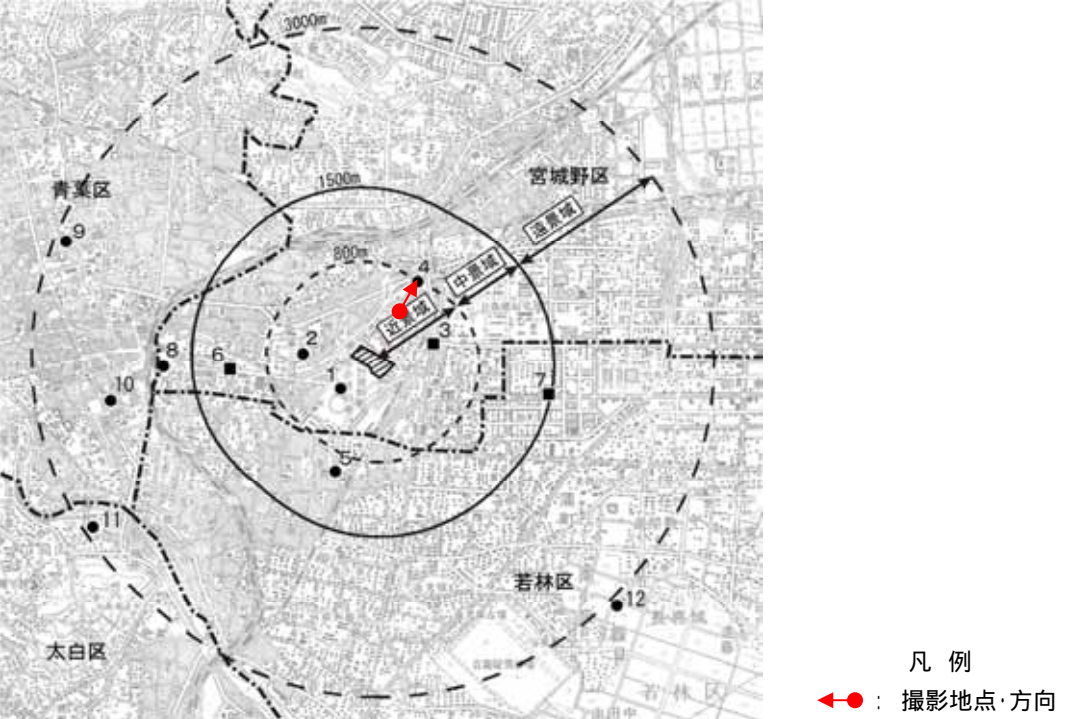
調査地点	宮城野区役所	
調査時期	展葉期 （平成 25 年 9 月 19 日）	落葉期 （平成 26 年 1 月 15 日）
眺望景観の状況		
撮影地点	 <p style="text-align: right;">凡例 ◀● : 撮影地点・方向</p>	
計画建築物からの距離	眺望地点は計画建築物の北北東，約 800m 地点に位置する。	
眺望地点の概要・状況	本眺望地点は，計画地の北北東，JR 陸前原ノ駅前に隣接する。庁舎 6 階が食堂売店になっており，展望スペースとして平日のみ自由に見学する事ができる。 計画地方向の眺望は，手前に仙台市宮城野区文化センターが見え，その奥に市街地の中高層建築物が一望できる。また，現医療センター，宮城球場の一部が視認できる。	

表 8.15-8-5 眺望地点の状況及び眺望景観の状況（地点 5：国分寺跡）



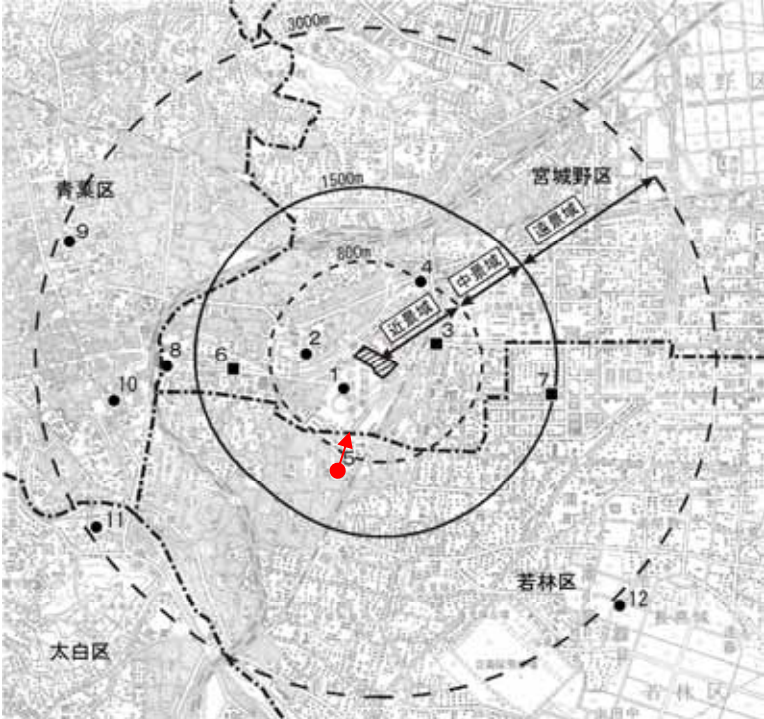
調査地点	国分寺跡	
調査時期	展葉期 (平成 25 年 9 月 20 日)	落葉期 (平成 26 年 1 月 15 日)
眺望景観の状況		
撮影地点	 <p style="text-align: right;">凡例 ◀●▶ : 撮影地点・方向</p>	
計画建築物からの距離	眺望地点は計画建築物の南南西、約 1,150m 地点に位置する。	
眺望地点の概要・状況	国分寺跡は宮城野原公園の南側に位置し、薬師堂を中心に周囲 240m が国指定の史跡となっている。史跡内には木々が生い茂り、隣接した公園にも植樹林がある。しかし、山門付近は空地となって開けており、樹木の上部に市街地の中高層建築物の一部が見える。計画地方向の眺望は、木ノ下公園の植樹林が広く視認できる。	

表 8.15-8-6 眺望地点の状況及び眺望景観の状況（地点6：宮城野通）



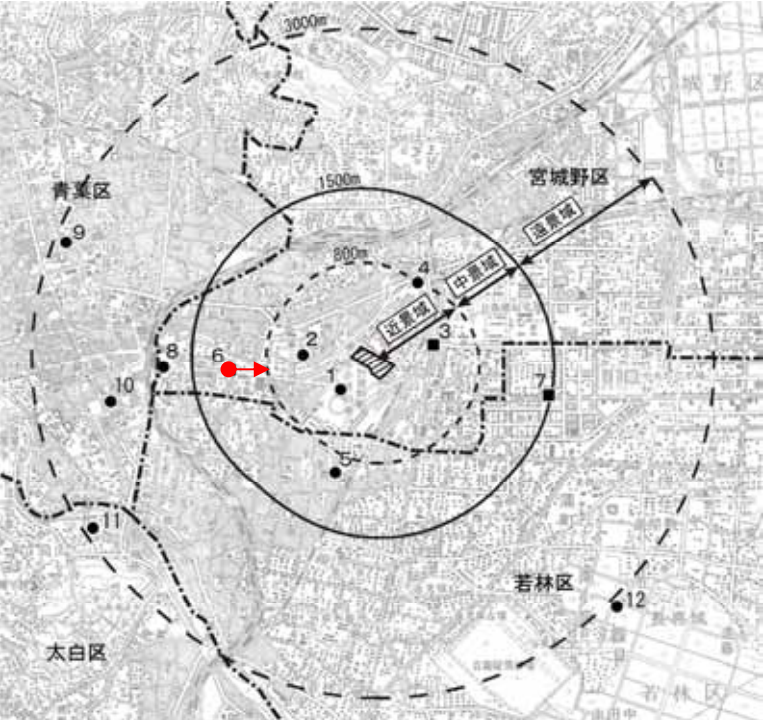
調査地点	宮城野通	
調査時期	展葉期 （平成 25 年 9 月 19 日）	落葉期 （平成 26 年 1 月 7 日）
眺望景観の状況		
撮影地点	 <p style="text-align: right;">凡例 ◀●▶ : 撮影地点・方向</p>	
計画建築物からの距離	眺望地点は計画建築物の西、約 1,250m 地点に位置する。	
眺望地点の概要・状況	<p>宮城野通は、仙台駅東口から東に延びるメインストリートであり、仙台駅東口の駅前広場から宮城野原公園へ至るほぼ直線の道路である。道路の両側には幅の広い歩道とケヤキ並木が続き、豊かな緑や噴水、彫刻に包まれて気軽に散策を楽しめる道として、広く市民に親しまれている。</p> <p>計画地方方向の眺望は、宮城野通沿いに中高層建築物及び街路樹が並び、その奥には市街地の中高層建築物を望むことができる。</p>	

表 8.15-8-7 眺望地点の状況及び眺望景観の状況（地点7：卸町）



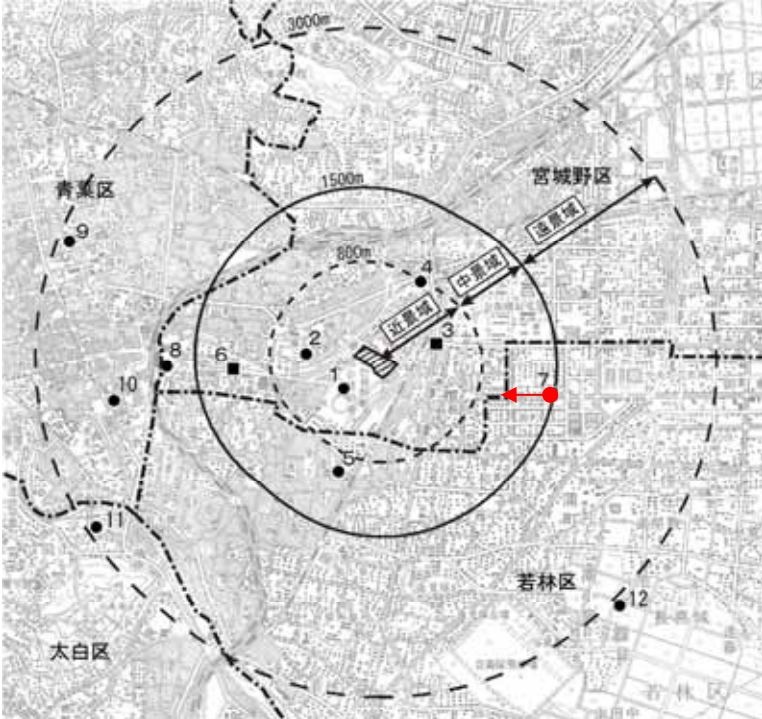
調査地点	卸町	
調査時期	展葉期 (平成 25 年 9 月 20 日)	落葉期 (平成 26 年 1 月 15 日)
眺望景観の状況		
撮影地点	 <p style="text-align: right;">凡例 ◀●▶ : 撮影地点・方向</p>	
計画建築物からの距離	眺望地点は計画建築物の東南東、約 1,500m 地点に位置する。	
眺望地点の概要・状況	<p>卸町は、仙台市の東部に位置し、東端を国道 4 号線仙台バイパスに接している。「仙台卸商団地」として流通関連地区が広がっている。</p> <p>計画地方向の眺望は、道路沿いに建築物が並び、道路中央には街路樹が見える。その奥には市街地の中高層建築物を望むことができる。</p>	

表 8.15-8-8 眺望地点の状況及び眺望景観の状況（地点 8：仙台駅東口）



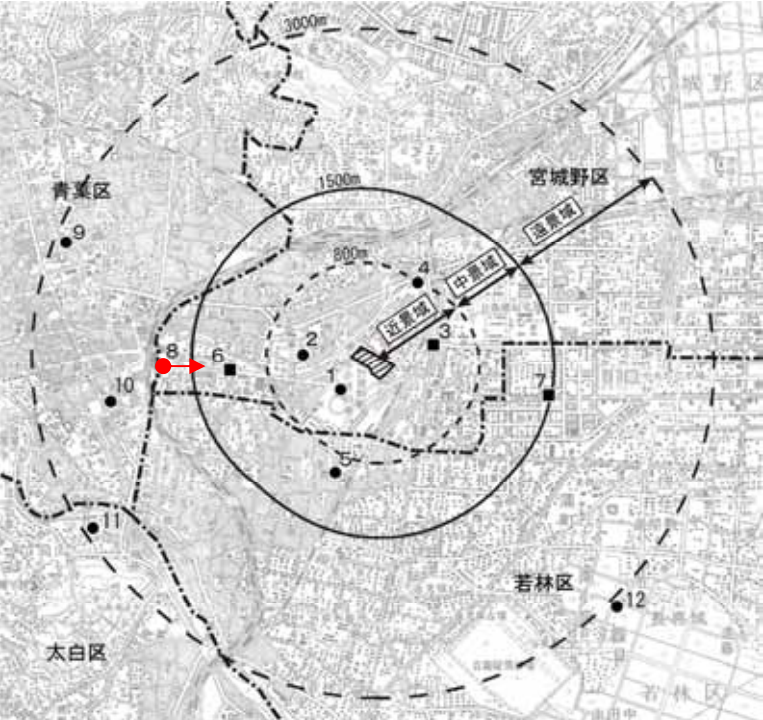
調査地点	仙台駅東口	
調査時期	展葉期 （平成 25 年 9 月 19 日）	落葉期 （平成 26 年 1 月 7 日）
眺望景観の状況		
撮影地点		
計画建築物からの距離	眺望地点は計画建築物の西、約 2,000m 地点に位置する。	
眺望地点の概要・状況	<p>仙台駅東口は、東北地方最大のターミナル駅である仙台駅の東側出入口として、通勤・通学や旅行客に利用されている。仙台駅東口の駅前広場には、長距離バスのバスプール、タクシー乗り場、送迎用のロータリーや駐車場及び地下駐輪場が配置されている。</p> <p>眺望地点は仙台駅東口に設置されたペDESTリアンデッキである。計画地方方向の眺望は、仙台駅東口の駅前広場を広く見渡せ、その奥には仙台駅東口の高層建築物を見渡すことができる。</p>	

表 8.15-8-9 眺望地点の状況及び眺望景観の状況（地点9：宮城県庁）



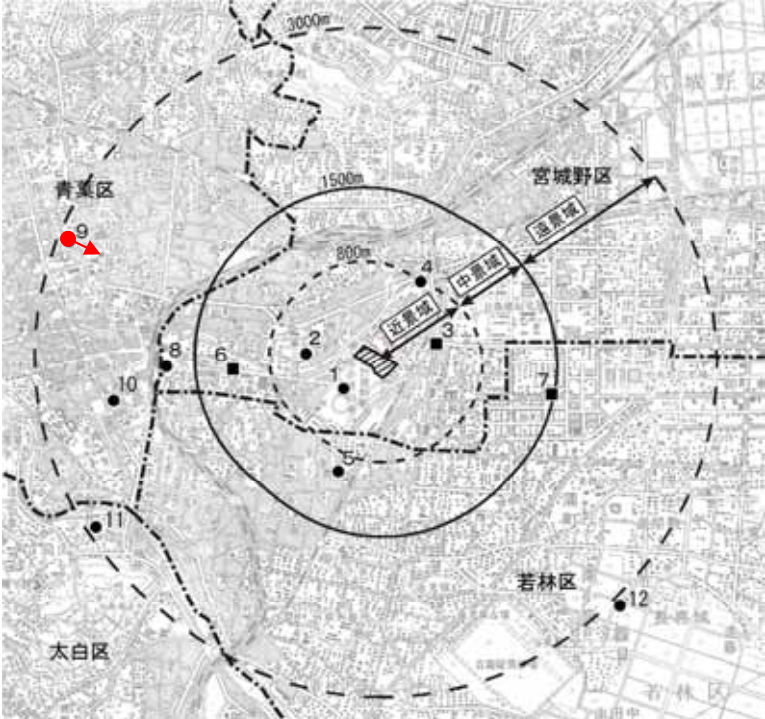
調査地点	宮城県庁	
調査時期	展葉期 (平成 25 年 9 月 20 日)	落葉期 (平成 26 年 1 月 14 日)
眺望景観の状況		
撮影地点	 <p style="text-align: right;">凡例 ◉ : 撮影地点・方向</p>	
計画建築物からの距離	眺望地点は計画建築物の西北西、約 3,300m 地点に位置する。	
眺望地点の概要・状況	<p>現在の県庁行政庁舎は地上 18 階、地下 2 階建てで平成元年に完成した。18 階を展望スペースとして平日のみ自由に見学する事ができる。晴れていれば、南は太平洋から蔵王連峰まで、北は泉ヶ岳や船形連峰まで望むことができる。</p> <p>計画地方方向の眺望は、市街地の中高層建築物が一望でき、その奥には仙台平野、太平洋が見渡せる。</p>	

表 8.15-8-10 眺望地点の状況及び眺望景観の状況（地点 10：SS30(住友生命仙台中央ビル)）



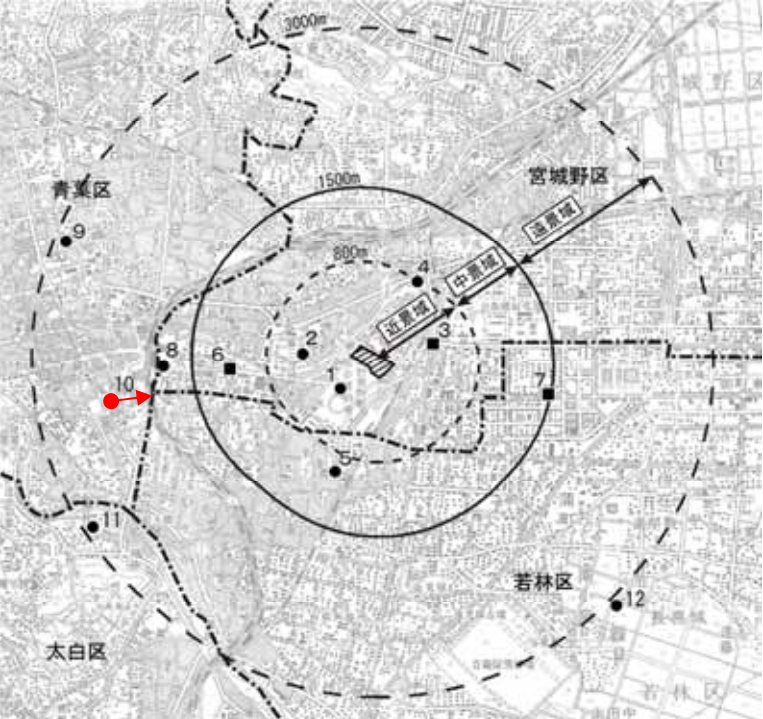
調査地点	卸町	
調査時期	展葉期 （平成 25 年 9 月 20 日）	落葉期 （平成 26 年 1 月 15 日）
眺望景観の状況		
撮影地点	 <p style="text-align: right;">凡例 ◀●▶ : 撮影地点・方向</p>	
計画建築物からの距離	眺望地点は計画建築物の西南西、約 2,400m 地点に位置する。	
眺望地点の概要・状況	<p>仙台駅南西に位置し、東北地方で初めて建てられた高さ 100m を超える高層ビル（平成元年完成、地上 31 階・地下 3 階、最高高さ 143m）で、オフィス・レストランとして利用される。30 階南側は無料展望台となっており、ガラス越しに市内を一望できる場となっている。</p> <p>計画地方方向の眺望は、市街地の中高層建築物及びその合間を通る東北新幹線の高架が一望でき、その奥には仙台平野が見渡せる。</p>	



表 8.15-8-11 眺望地点の状況及び眺望景観の状況（地点 11：愛宕神社）



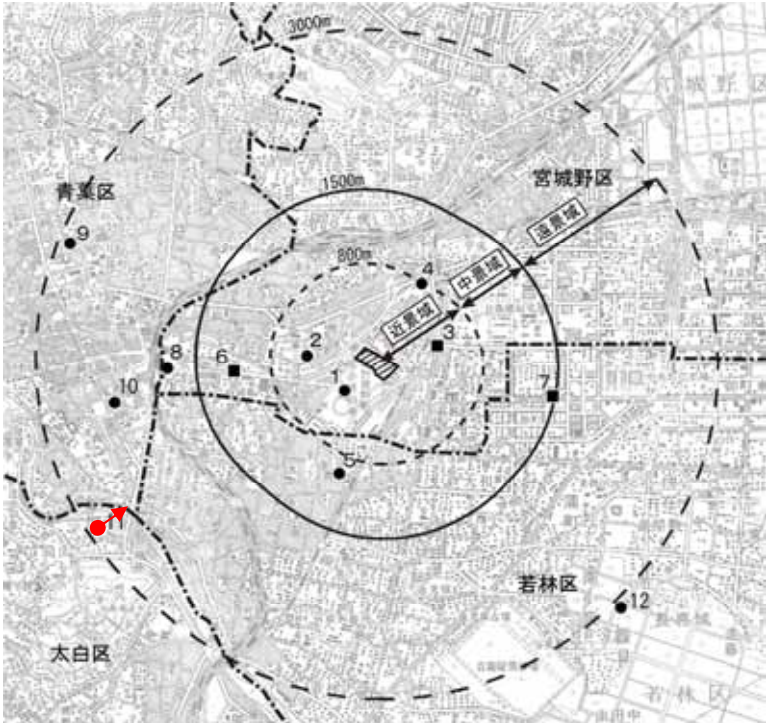


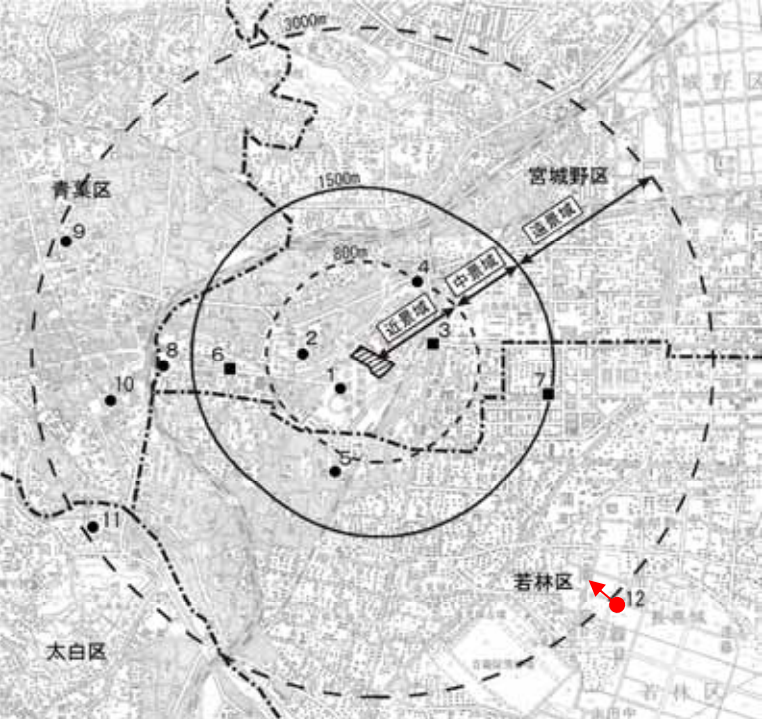
調査地点	愛宕神社	
調査時期	展葉期 (平成 25 年 9 月 20 日)	落葉期 (平成 26 年 1 月 15 日)
眺望景観の状況		
撮影地点		
計画建築物からの距離	眺望地点は計画建築物の南西、約 2,950m 地点に位置する。	
眺望地点の概要・状況	<p>愛宕神社は、仙台市都心部の南側に位置し、広瀬川沿いにある標高約 75m の愛宕山の頂上にある。北側は崖で、広瀬川を隔てて市街中心部を見下ろす展望台があり、広瀬川や市街地を一望できる場所として広く市民に親しまれている。</p> <p>計画地方向の眺望は、愛宕山の樹林の奥に市街地の中高層建築物を見渡すことができ、現医療センターの一部が視認できる。</p>	

表 8.15-8-12 眺望地点の状況及び眺望景観の状況（地点 12：長喜城）

調査地点	長喜城	
調査時期	展葉期 （平成 25 年 9 月 19 日）	落葉期 （平成 26 年 1 月 15 日）
眺望景観の状況		
撮影地点	 <p style="text-align: right;">凡例 ◀● : 撮影地点・方向</p>	
計画建築物からの距離	眺望地点は計画建築物の南東、約 3,100m 地点に位置する。	
眺望地点の概要・状況	本眺望地点は、仙台市南東部に位置し、周囲は水田地帯である。水田の中に「いぐね」と呼ばれる屋敷林を備えた家屋敷が点在する農村風景が広がる。長喜城周辺は仙台市の「杜の都 緑の名所 100 選」に選定されている。計画地方面向の眺望は、手前に広く水田地帯が広がり、遠くに市街地の中高層建築物を望むことができる。	

## 8.15.2. 予測

### (1) 存在による影響

#### ア 予測内容

予測内容は、計画建築物等の出現に伴う「自然的景観資源及び文化的景観資源への影響」及び「主要な眺望、周辺道路からの景観への影響」とした。

#### イ 予測地域等

計画地周辺において、事業の実施により景観への影響が生じるおそれのある地域とし、調査地域及び調査地点と同様とした。

#### ウ 予測対象時期

予測対象時期は、景観への影響が一番大きくなる時期をとらえるため、建築工事が完了し、現病院の解体前の時点（平成 28 年）とした。

#### エ 予測方法

自然的景観資源及び文化的景観資源への影響

計画地近傍には文化的景観資源である国分寺跡、陸奥国分寺薬師寺及び陸奥国分寺跡等があることから、各々の文化的景観資源と計画地の重ね合わせにより影響を予測した。

主要な眺望、周辺道路からの景観への影響

計画地周辺の主要な眺望地点として、近景域（800m 以内）は、宮城野原公園、榴岡公園、銀杏町及び宮城野区役所の 4 地点、中景域（800～1,500m の範囲）は、国分寺跡、宮城野通及び卸町の 3 地点、遠景域（1,500m 超）は、仙台駅東口、宮城県庁展望台、SS30(住友生命仙台中央ビル)、愛宕神社及び長喜城の 5 地点がある。

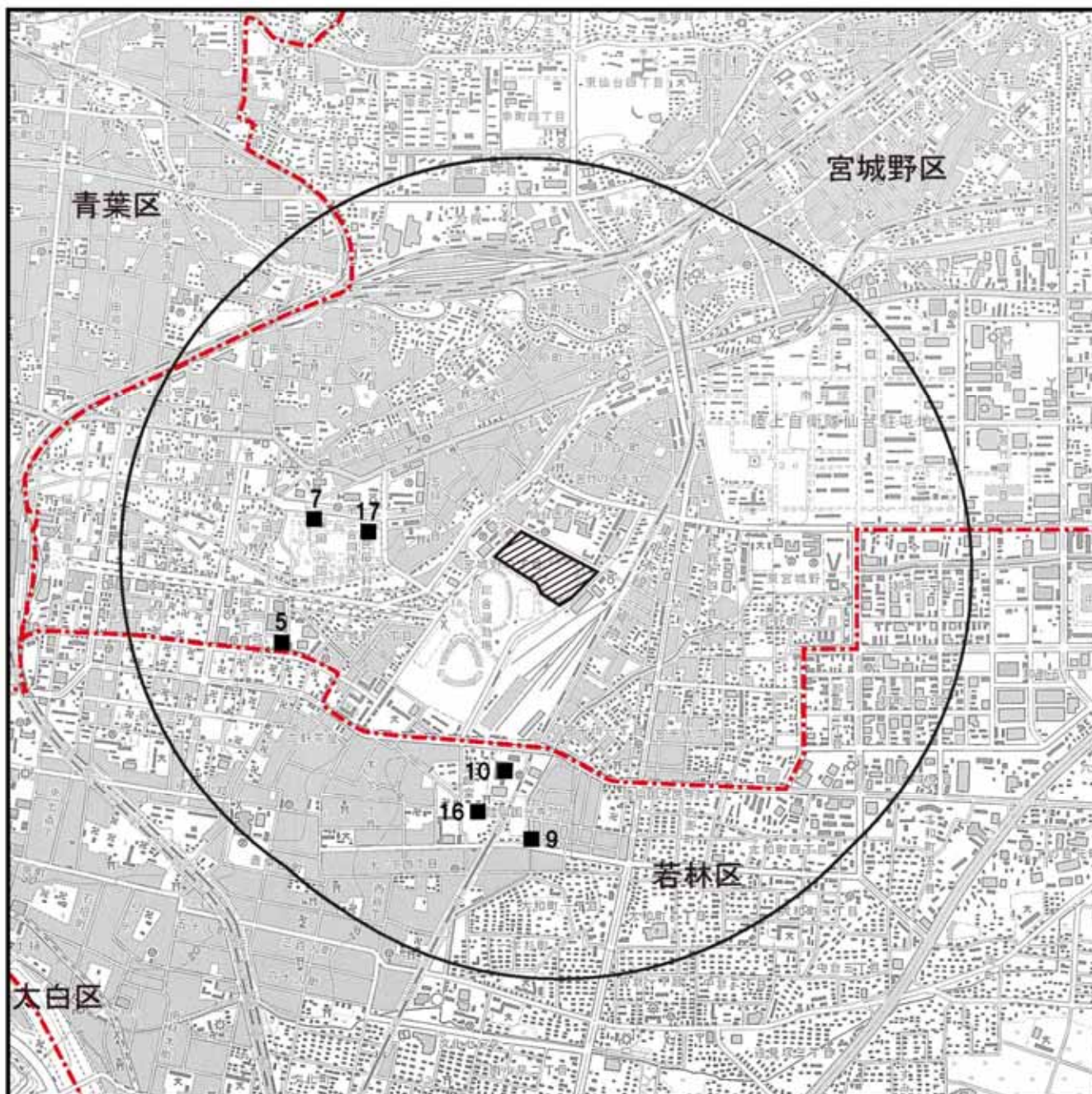
上記 12 地点の主要な眺望地点からの眺望景観のフォトモンタージュを作成し、展葉季及び落葉季の 2 季について眺望景観の変化及び影響を予測した。

#### オ 予測結果

自然的景観資源及び文化的景観資源への影響

計画地の範囲と各々の文化的景観資源を重ね合わせたものを図 8.15-3 に示す。

本事業が自然的景観資源及び文化的景観資源及びその周辺景観を直接改変することはなく、自然的景観資源及び文化的景観資源に及ぼす影響はないと予測される。



凡 例



対象事業計画地



関係地域の範囲(対象事業計画地から1500mの範囲)



区境界



文化的景観資源

文化的景観資源

- 5 孝勝寺
- 7 榴岡天満宮
- 9 国分寺跡
- 10 陸奥国分寺薬師堂
- 16 陸奥国分寺
- 17 旧歩兵第4連隊兵舎

出典：「平成15年度 自然環境に関する基礎調査業務報告書」(平成16年2月 仙台市)  
「みやぎ・身近な景観百選」(平成22年3月 宮城県)  
<http://www.pref.miyagi.jp/tosikei/portal/100sen/hyakusen.htm>  
「みやぎ伊達な観光マップ」 <http://www.datenamap.com/>

図 8.15-3 計画地と文化的景観資源の重ね合わせ図



S=1:25,000  
0 250 500 1000m

主要な眺望，周辺道路からの景観への影響

主要な眺望地点である 12 地点（近景域 4 地点，中景域 3 地点，遠景域 5 地点）の眺望は，計画建築物完成後の状況のフォトモンタージュを作成し，変化について予測した。

フォトモンタージュによる予測結果を，図 8.15-4～図 8.15-12 に示す。フォトモンタージュは，各地点とも展葉期及び落葉期の状況について作成した。

眺望の変化の状況は，表 8.15-9 のとおりである。

表 8.15-9 主要な眺望，周辺道路からの景観の変化の予測結果

地点番号	眺望地点	計画地からの距離	仰角 または 俯角 <sup>1 2</sup>	眺望の変化
1	宮城野原公園	約 350m	10°	計画建築物は，陸上競技場の上方に上層階が明瞭に視認可能であるが，既に現況において陸上競技場の全容が視認できており，計画建築物の視認範囲は，陸上競技場に対して限られていることから，計画建築物による眺望景観への影響は小さいものと予測される。
2	榴岡公園	約 500m	4°	計画建築物は，手前にある公園の常緑樹によって遮られるため，視認できないことから，計画建築物による眺望景観への影響はないものと予測される。
3	銀杏町	約 600m	7°	計画建築物は，手前の建築物の奥及び一部視認であり，現状の建築物群の一部として認識されることから，計画建築物による眺望景観への影響は小さいと予測される。
4	宮城野区役所	約 800m	2°	計画建築物は，現状の中高層建築物群の中に一部が視認可能であり，現状の中高層建築物群の一部として認識されることから，計画建築物による眺望景観への影響は小さいと予測される。
5	国分寺跡	約 1,150m	3°	計画建築物は，手前の常緑樹によって遮られるため，視認できないことから，計画建築物による眺望景観への影響はないものと予測される。
6	宮城野通	約 1,250m	2°	計画建築物は，手前にある樹木や中高層建築物によって遮られるため，視認できないことから，計画建築物による眺望景観への影響はないものと予測される。
7	卸町	約 1,500m	2°	計画建築物は，手前にある樹木や中高層建築物によって遮られるため，視認できないことから，計画建築物による眺望景観への影響はないものと予測される。
8	仙台駅東口	約 2,000m	1°	計画建築物は，手前にある樹木や中高層建築物によって遮られるため，視認できないことから，計画建築物による影響はないものと予測される。

1：仰角または俯角は，眺望点から計画建築物上部(高さ約 55m)の角度とする。

2：仰角および俯角は，それぞれ正および負で表す。

地点 番号	眺望 地点	計画地 からの 距離	仰角 または 俯角 <sup>1 2</sup>	眺望の変化
9	宮城県庁	約 3,300m	-1°	計画建築物は、眺望地点からは、遠方ではあるが、現状の市街地中高層建築物群の奥に一部が視認可能であり、現状の中高層建築物群の一部として認識されることから計画画建築物による眺望景観の変化は小さいと予想される。
10	SS30 (住友生命仙 台中央ビル)	約 2,400m	-2°	SS30の外壁と周辺の中高層建築物の合間から、眼下に広がる市街地の中高層建築物群の中に計画建築物の一部が視認可能であり、現状の中高層建築物群の一部として認識されることから、計画建築物による眺望景観の変化は小さいと予測される。
11	愛宕神社	約 2,950m	0°	計画建築物は、眺望地点からは、遠方ではあるが、現状の市街地中高層建築物群の奥に一部が視認可能であり、現状の中高層建築物群の一部として認識されることから、計画建築物による眺望景観の変化は小さいと予想される。
12	長喜城	約 3,100m	1°	計画建築物は、眺望地点からは、遠方ではあるが、水田地帯と、その奥に広がる市街地の中高層建築物の合間から計画建築物の一部が視認できることから、計画建築物による眺望景観の変化は小さいと予想される。

1：仰角または俯角は、眺望点から計画建築物上部(高さ約 55m)の角度とする。

2：仰角および俯角は、それぞれ正および負で表す。

現 状【展葉期】



建築工事の完了後【展葉期】

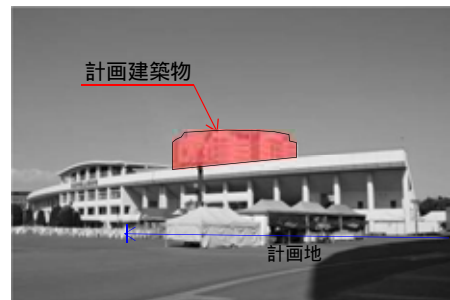


図 8.15-4-1 眺望景観の変化の予測結果（地点1：宮城野公園【展葉期】）

現 状【落葉期】



建築工事の完了後【落葉期】

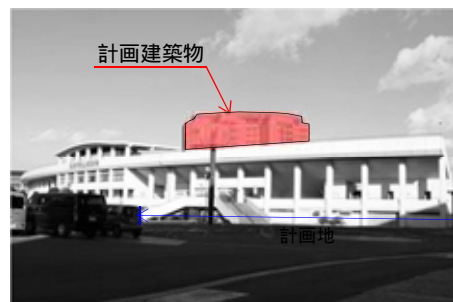


図 8.15-4-2 眺望景観の変化の予測結果（地点1：宮城野原公園【落葉期】）



現 状【展葉期】



建築工事の完了後【展葉期】



既存樹木・建築物により視認できないものと予測



図 8.15-5-1 眺望景観の変化の予測結果（地点2：榴岡公園【展葉期】）

現 状【落葉期】



建築工事の完了後【落葉期】



既存樹木・建築物により視認できないものと予測



図 8.15-5-2 眺望景観の変化の予測結果（地点2：榴岡公園【落葉期】）

現 状【展葉期】



建築工事の完了後【展葉期】



図 8.15-6-1 眺望景観の変化の予測結果（地点 3：銀杏町【展葉期】）

現 状【落葉期】



建築工事の完了後【落葉期】



図 8.15-6-2 眺望景観の変化の予測結果（地点3：銀杏町【落葉期】）

現 状【展葉期】



建築工事の完了後【展葉期】



図 8.15-7-1 眺望景観の変化の予測結果（地点 4：宮城野区役所【展葉期】）

現 状【落葉期】



建築工事の完了後【落葉期】



図 8.15-7-2 眺望景観の変化の予測結果（地点 4：宮城野区役所【落葉期】）

現 状【展葉期】



建築工事の完了後【展葉期】



既存樹木・建築物により視認できないものと予測

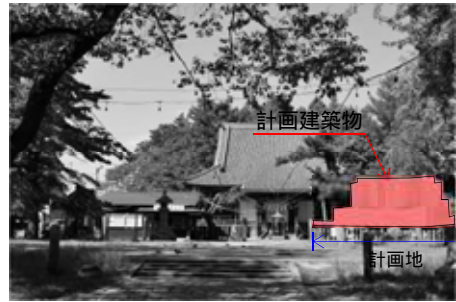


図 8.15-8-1 眺望景観の変化の予測結果（地点5：国分寺跡【展葉期】）

現 状【落葉期】



建築工事の完了後【落葉期】



既存樹木・建築物により視認できないものと予測

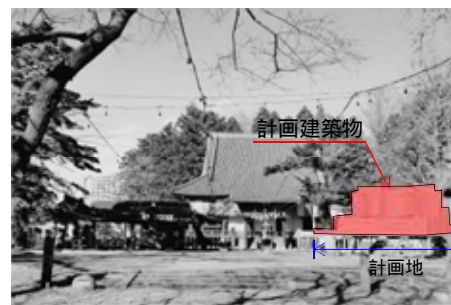


図 8.15-8-2 眺望景観の変化の予測結果（地点5：国分寺跡【落葉期】）



現 状【展葉期】



建築工事の完了後【展葉期】



既存樹木・建築物により視認できないものと予測

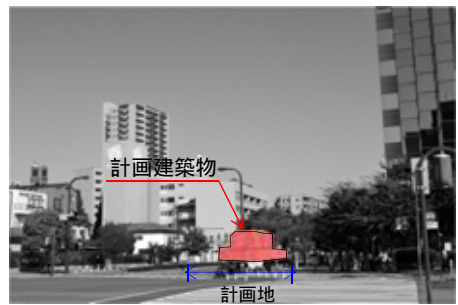


図 8.15-9-1 眺望景観の変化の予測結果（地点6：宮城野通【展葉期】）

現 状【落葉期】



建築工事の完了後【落葉期】



既存樹木・建築物により視認できないものと予測

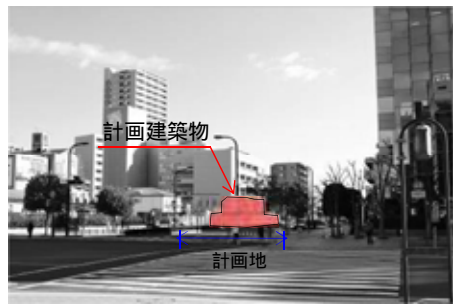


図 8.15-9-2 眺望景観の変化の予測結果（地点6：宮城野通【落葉期】）

現 状【展葉期】



建築工事の完了後【展葉期】



既存樹木・建築物により視認できないものと予測

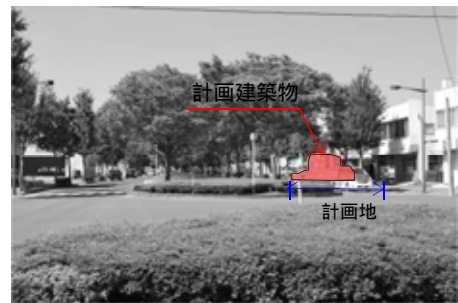


図 8.15-10-1 眺望景観の変化の予測結果（地点7：卸町【展葉期】）

現 状【落葉期】



建築工事の完了後【落葉期】

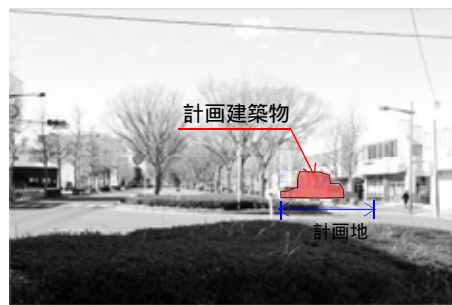


図 8.15-10-2 眺望景観の変化の予測結果（地点7：卸町【落葉期】）

現 状【展葉期】



建築工事の完了後【展葉期】



既存樹木・建築物により視認できないものと予測

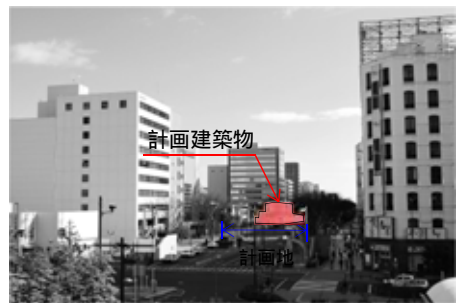


図 8.15-11-1 眺望景観の変化の予測結果（地点 8：仙台駅東口【展葉期】）

現 状【落葉期】



建築工事の完了後【落葉期】



既存樹木・建築物により視認できないものと予測

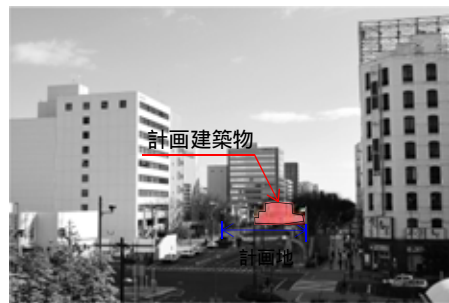


図 8.15-11-2 眺望景観の変化の予測結果（地点 8：仙台駅東口【落葉期】）

現 状【展葉期】



建築工事の完了後【展葉期】

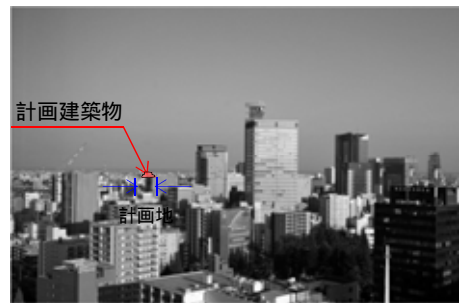


図 8.15-12-1 眺望景観の変化の予測結果（地点9：宮城県庁【展葉期】）

現 状【落葉期】



建築工事の完了後【落葉期】

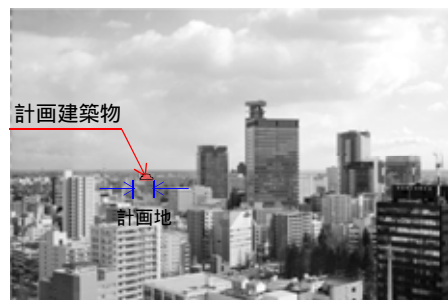


図 8.15-12-2 眺望景観の変化の予測結果（地点9：宮城県庁【落葉期】）



現 状【展葉期】



建築工事の完了後【展葉期】



図 8.15-13-1 眺望景観の変化の予測結果（地点 10：SS30【展葉期】）

現 状【落葉期】



建築工事の完了後【落葉期】

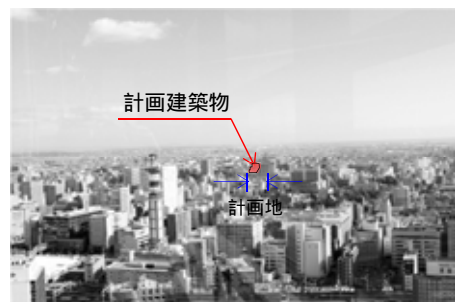


図 8.15-13-2 眺望景観の変化の予測結果（地点 10：SS30【落葉期】）

現 状【展葉期】



建築工事の完了後【展葉期】



図 8.15-14-1 眺望景観の変化の予測結果（地点 11：愛宕神社【展葉期】）

現 状【落葉期】



建築工事の完了後【落葉期】



図 8.15-14-2 眺望景観の変化の予測結果（地点 11：愛宕神社【落葉期】）

現 状【展葉期】



建築工事の完了後【展葉期】



図 8.15-15-1 眺望景観の変化の予測結果（地点 12：長喜城【展葉期】）

現 状【落葉期】



建築工事後の完了後【落葉期】

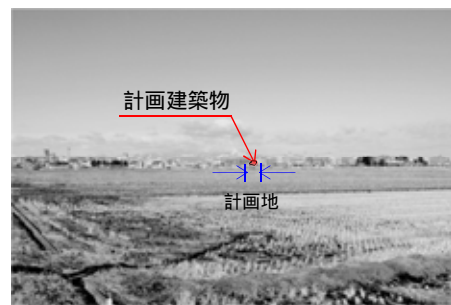


図 8.15-15-2 眺望景観の変化の予測結果（地点 12：長喜城【落葉期】）

### 8.15.3. 環境の保全及び創造のための措置

計画建築物の出現に伴う自然的及び文化的景観資源への影響はなく、主要な眺望、周辺道路からの景観への影響は小さいと予測された。

本事業の実施にあたっては、景観への影響を可能な限り低減するため、「仙台市「杜の都」景観計画」との整合を図り、周辺の景観との調和、圧迫感の軽減、新たな都市景観の創出等に配慮し、表 8.15-10 に示す措置を講ずることとする。

表 8.15-10 環境の保全及び創造のための措置（存在による影響(工作物等の出現)）

環境影響要因	環境の保全及び創造のための措置の内容
存在による影響 (工作物等の出現)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新病院には、地域医療支援病院や基幹災害拠点病院の役割が求められることから、地域の安心・安全のシンボルとして、「安心感」「透明感」「堅実さ」などを建物の全体構成や外観デザインによって表現する。</li> <li>・街全体の景観形成や面的な広がりのあるネットワーク創出を目指して、街路樹との一体的な緑化整備を行い、街の景観整備に寄与する（緑化計画は「1.4.9 緑化計画」に示す）。</li> <li>・生け垣と葉張りの狭い高木で駐車場を囲うことで圧迫感を軽減、エントランスに四季の花壇を設置、仙石線 宮城野原駅の沿道には桜を配する等の景観に配慮した緑化計画とする。</li> <li>・外来棟最上階の3階に位置する大講堂は大きな階高を必要とする部分であるが、外周部に高さを抑えた大庇を設けることによって水平ラインを強調し、大きな階高による街への圧迫感を軽減するデザインとする（全体のデザインは「1.4.7 立面計画」に示す）。</li> <li>・外来棟の北側1,2階は、アプローチ道路からの視認性がよいことから、高さ2m程度の地窓風のガラスを水平面に展開させ、外部への透明感をアピールする。</li> <li>・病棟階(5~11階)は、柱・梁が外部側に張り出したアウトフレームで構成し、堅実で安心感のあるデザイン構成とし、凛として彫の深い印象的な表情を持つファザード(建物の正面をなす外観)計画を行う。</li> </ul>

#### 8.15.4. 評価

##### (1) 存在による影響

###### ア 回避・低減に係る評価

###### 評価方法

予測結果を踏まえ、計画建築物等の存在による景観資源、眺望景観及び周辺道路からの景観への影響が、建物の配置、保全対策等により、実行可能な範囲内で最大限の回避・低減が図られているか否かを判断する。

###### 評価結果

予測の結果、計画建築物の出現に伴う自然的及び文化的景観資源への影響はなく、主要な眺望、周辺道路からの景観への影響は小さいと予測された。

また、本事業では、環境保全措置として外来棟の北側1,2階は、アプローチ道路からの視認性がよいことから、高さ2m程度の地窓風ガラス面を水平展開させ、外部への透明感をアピールする外観としている。

外来棟最上階の3階に位置する大講堂は、大きな階高を必要とする部分であるが、外周部に高さを抑えた大庇を設けることによって水平ラインを強調し、大きな階高による街への圧迫感を軽減するデザインとすることとしている。

さらに、緑化計画では、街全体の景観形成や面的な広がりのあるネットワーク創出を目指して、街路樹との一体的な緑化整備を行い、街の景観整備に寄与する計画としている。

したがって、景観資源及び眺望景観への影響は、実行可能な範囲内で、最大限の回避・低減が図られていると共に、新たな景観を創出するものと評価する。

###### イ 基準や目標との整合性に係る評価

###### 評価手法

予測結果が、表 8.15-11 に示す基準等と整合が図られているかを評価する。

表 8.15-11 整合を図る基準(存在による影響(工作物等の出現))

環境影響要因	整合を図る基準の内容
存在による影響 (工作物等の出現)	・ 仙台市「杜の都」景観計画における「沿線市街地ゾーン」の建築物等に対する方針 (表 8.15-12 参照)

表 8.15-12 沿線市街地ゾーンにおける建築物等に対する方針

街並みの連続性に配慮した建築物等の形態・意匠、色彩、高さ等とする。 幹線道路沿いは、連続的な眺めを確保し、街並みの調和に配慮した建築物等の形態・意匠、色彩、高さ等とする。 沿線の鉄道・道路施設等は、街並みからの眺望に配慮した景観整備を図る。
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

###### 評価結果

「仙台市「杜の都」景観計画」に示される沿線市街地ゾーンにおける建築物等に対する方針では、街並みの調和に配慮した建築物に対する形態・意匠、色彩、高さ等を対象項目に挙げており、本事業では、「1.4.2.事業概要」、「1.4.7.立面計画」に示すとおり、沿線市街地ゾーンにおける建築物に対する方針を満足している。

したがって、「仙台市「杜の都」景観計画」に示される目標等と整合が図られていると評価する。